

令和5(2023)年度

# 事業報告書

学校法人 麻布獣医学園

# 令和5(2023)年度 事業報告書

## 目次

### I 法人の概要

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1. 建学の精神             | 1  |
| 2. 沿革                | 2  |
| 3. 設置する学校・学部・学科等     | 4  |
| 4. 機構図               | 5  |
| 5. 学生・生徒の状況          | 6  |
| (1) 入学定員、収容定員、学生・生徒数 | 6  |
| (2) 収容定員充足率の推移       | 6  |
| (3) 入学者数の推移          | 7  |
| (4) 専任教員一人当たりの学生数    | 7  |
| (5) 非正規課程履修者         | 7  |
| 6. 役員・評議員            | 8  |
| (1) 役員               | 8  |
| (2) 役員賠償責任保険契約の状況    | 8  |
| (3) 評議員              | 9  |
| 7. 教職員の状況            | 10 |
| (1) 大学教員〔常勤〕         | 10 |
| (2) 高等学校教員〔常勤〕       | 11 |
| (3) 職員〔常勤〕           | 11 |
| (4) 非常勤教職員           | 11 |

### II 事業の概要

|                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 基本経営方針 ミッションステートメント | 12 |
| 2. 将来に向けてのビジョン         | 12 |
| 3. 当年度事業計画の実施状況        | 13 |
| 4. 教育研究の概要             | 36 |
| (1) 教育実施体制             | 37 |
| (2) 入学試験実施状況           | 38 |
| (3) 卒業者・修了者数及び進路状況     | 42 |
| (4) 国家試験               | 46 |
| (5) 退学者数・中退率・留年者数      | 47 |
| (6) 国際交流               | 48 |
| (7) 研究・知的財産等           | 49 |
| (8) 産官学連携              | 52 |
| (9) 地域連携               | 53 |
| (10) 麻布大学附属高等学校に関する情報  | 55 |

### III 財務の概要

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1. 学校法人会計の特徴と企業会計との比較           | 57 |
| 2. 決算の概要                        | 58 |
| 3. 財務比率の推移                      | 63 |
| 4. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 | 73 |

# I 法人の概要

|        |   |
|--------|---|
| 法人名    | 学校法人 麻布獣医学園   |
| 理事長名   | 小倉 弘明   |
| 所在地    | 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 1 7 - 7 1                                      |
| 電話番号   | 042-754-7111(代表)  |
| FAX 番号 | 042-754-7661(代表)  |
| ホームページ | <a href="https://www.azabu-u.ac.jp">https://www.azabu-u.ac.jp</a> |

## 1. 建学の精神

### 「学理の討究と誠実なる実践」

本学は、創設者 與倉東隆（よくらはるたか）先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求することを目的として、獣医学、畜産学、獣医保健看護学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の知識を教授研究し、その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしています。

## 2. 沿革

|                    |                                   |                     |   |
|--------------------|-----------------------------------|---------------------|---|
| 明治23(1890)年<br>9月  | 東京獣医講習所開所<br>(現 東京都港区南麻布)         | 昭和 53(1978)年<br>11月 | 麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科廃止   |
| 明治27(1894)年<br>4月  | 麻布獣医学校開設                          | 昭和 54(1979)年<br>6月  | 麻布公衆衛生短期大学廃止  |
| 明治45(1912)年<br>3月  | 麻布獣医畜産学校と改称                       | 昭和 55(1980)年<br>4月  | 麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更   |
| 大正 9(1920)年<br>9月  | 財団法人麻布獣医畜産学校設立                    |                     | 獣医学部家畜環境学科を獣医学部環境畜産学科に名称変更  |
| 昭和 9(1934)年<br>4月  | 実業専門学校令による麻布獣医専門学校<br>の設置         | 昭和 59(1984)年<br>4月  | 獣医学教育 6 年制発足 (学校教育法の一部改正による)                                      |
|                    | 財団法人麻布獣医専門学校と校名変更                 | 昭和 60(1985)年<br>10月 | 渚野辺高等学校を麻布大学附属渚野辺高等学校に名称変更認可                                      |
| 昭和19(1944)年<br>12月 | 麻布獣医畜産専門学校と改称                     | 昭和 63(1988)年<br>4月  | 麻布大学附置生物科学総合研究所設置   |
| 昭和22(1947)年<br>6月  | 現在地 (神奈川県相模原市) に移転                | 平成元(1989)年<br>12月   | 獣医学部環境畜産学科、環境保健学部臨時定員増認可  |
| 昭和25(1950)年<br>2月  | 新学制による麻布獣医科大学の設置<br>認可 財団法人麻布獣医学園 | 平成 2(1990)年<br>4月   | 麻布大学大学院獣医学研究科博士課程<br>(4 年制) 開設                                    |
| 4月                 | 麻布獣医科大学として開学                      | 平成 5(1993)年<br>4月   | 麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻 (修士課程) 開設                                   |
| 昭和26(1951)年<br>3月  | 財団法人から学校法人へ改組、学校法人麻布獣医学園となる       | 平成 6(1994)年<br>4月   | 麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻 (修士課程) 開設                                 |
| 昭和27(1952)年<br>3月  | 麻布獣医畜産専門学校廃止                      |                     | 麻布大学獣医学部環境畜産学科を獣医学部動物応用科学科に改組                                     |
| 昭和32(1957)年<br>4月  | 麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科開設               |                     | 麻布大学獣医学部環境畜産学科募集停止  |
| 昭和35(1960)年<br>4月  | 麻布獣医科大学大学院修士課程開設                  | 平成 7(1995)年<br>4月   | 麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻 (博士課程) 開設                                   |
| 昭和36(1961)年<br>5月  | 麻布獣医学園渚野辺高等学校開校                   | 平成 8(1996)年<br>4月   | 麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻 (博士課程) 開設                                 |
| 昭和37(1962)年<br>4月  | 麻布獣医科大学大学院博士課程開設                  | 平成 9(1997)年<br>7月   | 麻布大学附属動物管理センター設置  |
| 昭和40(1965)年<br>4月  | 麻布公衆衛生短期大学開学                      |                     | 麻布大学大学学生部保健課を麻布大学健康管理センターに組織変更                                    |
| 昭和51(1976)年<br>4月  | 麻布獣医科大学獣医学部家畜環境学科開設               | 平成 10(1998)年<br>4月  | 麻布大学環境保健学部環境保健学科を環境保健学部健康環境科学科に名称変更                               |
| 昭和53(1978)年<br>4月  | 麻布獣医科大学環境保健学部 (環境保健学科及び衛生技術学科) 開設 | 12月                 | 麻布大学獣医学部動物応用科学科、環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則認可 (平成 11 年度まで) |

|                   |  |                    |  |
|-------------------|--|--------------------|--|
| 平成11(1999)年<br>3月 | 麻布大学獣医学部環境畜産学科廃止<br>認可   | 平成 27(2015)年<br>9月 | 麻布大学いのちの博物館開館  |
| 4月                | 麻布大学環境保健学部環境政策学科<br>開設   | 平成 28(2016)年<br>3月 | 麻布大学大学院環境保健学研究科環境衛<br>生政策専攻(修士課程)廃止  |
| 7月                | 麻布大学獣医学部動物応用科学科、<br>環境保健学部健康環境科学科・衛生<br>技術学科の期間付入学定員増に係る<br>学則認可(平成16年度まで)   | 4月                 | 麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科<br>学専攻博士前期課程収容定員変更  |
|                   | 麻布大学獣医学部動物応用科学科、<br>環境保健学部健康環境科学科・衛生<br>技術学科の期間付入学定員の廃止に<br>伴う収容定員増に係る学則変更認可   | 平成 29(2017)年<br>4月 | 麻布大学獣医学部動物応用科学科収容定<br>員変更  |
| 10月               | 麻布大学環境保健学部健康環境科学<br>科・衛生技術学科の編入学定員設定<br>認可   | 令和 3(2021)年<br>4月  | 麻布大学フィールドワークセンター(島<br>根県美郷町)開設   |
| 平成12(2000)年<br>4月 | 麻布大学附属図書館と麻布大学附属<br>情報処理センターを統合し、麻布大<br>学附属学術情報センターを設置   | 令和 3(2021)年<br>10月 | 大学教育推進機構を設置し、同機構の下<br>に教育推進センター、教育方法開発セン<br>ター、データサイエンスセンター及び教<br>学 IR センターを設置 |
| 平成15(2003)年<br>4月 | 麻布大学大学院環境保健学研究科環<br>境衛生政策専攻(修士課程)開設  | 令和 4(2022)年<br>12月 | DEI 推進センター設置   |
| 平成18(2006)年<br>7月 | 麻布大学獣医学部動物応用科学科の<br>入学定員増に係る学則変更認可   | 令和 6(2024)年<br>4月  | 麻布大学獣医学部獣医保健看護学科開設<br><br>麻布大学獣医学部総合科学部門設置                                     |
| 平成19(2007)年<br>4月 | 麻布大学獣医学部附属動物病院を麻<br>布大学附属動物病院に組織及び名称<br>変更<br><br>麻布大学附属教育推進センター設置   |                    | 大学教育推進機構の下に、高大接続・社<br>会連携プログラム開発センター設置<br>(麻布大学地域連携センターは廃止)<br><br>副学長制度を創設    |
| 平成20(2008)年<br>4月 | 麻布大学環境保健学部を改組し、生<br>命・環境科学部臨床検査技術学科、<br>食品生命科学科及び環境科学科を開<br>設(環境保健学部健康環境科学科、<br>衛生技術学科及び環境政策学科は募<br>集停止)<br><br>麻布大学研究推進・支援本部を設置 |                    |  |
| 平成25(2013)年<br>3月 | 麻布大学環境保健学部(健康環境科<br>学科、衛生技術学科及び環境政策学<br>科)を廃止  |                    |  |
| 平成26(2014)年<br>4月 | 麻布大学附属淵野辺高等学校を麻布<br>大学附属高等学校に名称変更  |                    |  |
| 平成27(2015)年<br>4月 | 麻布大学地域連携センター設置   |                    |  |

## 3. 設置する学校・学部・学科等

## 大 学

学 部 ・ 学 科

大 学 院

研 究 科

## 麻布大学

獣医学部 (獣医学科、獣医保健看護学科、動物応用科学科)  
 生命・環境科学部 (臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科)

麻布大学大学院  
 獣医学研究科 獣医学専攻 (博士課程)  
 動物応用科学専攻 (博士前期課程、博士後期課程)  
 環境保健学研究科 環境保健科学専攻 (博士前期課程、博士後期課程)

設置認可年月

昭和 25(1950)年 2月

学 長 名

川上 泰

所 在 地

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

目 的

〔大学〕

獣医学、畜産学、獣医保健看護学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめ、進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し、平和社会の建設に貢献する。

〔大学院〕

建学の精神に則り、学部における教育の基礎の上に、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高い技術力及び研究指導能力を養い、また、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与する。

## 高等学校

課 程 ・ 学 科

## 麻布大学附属高等学校

全日制課程 普通科

設置認可年月

昭和 36(1961)年 5月

校 長 名

飯田 敦往

所 在 地

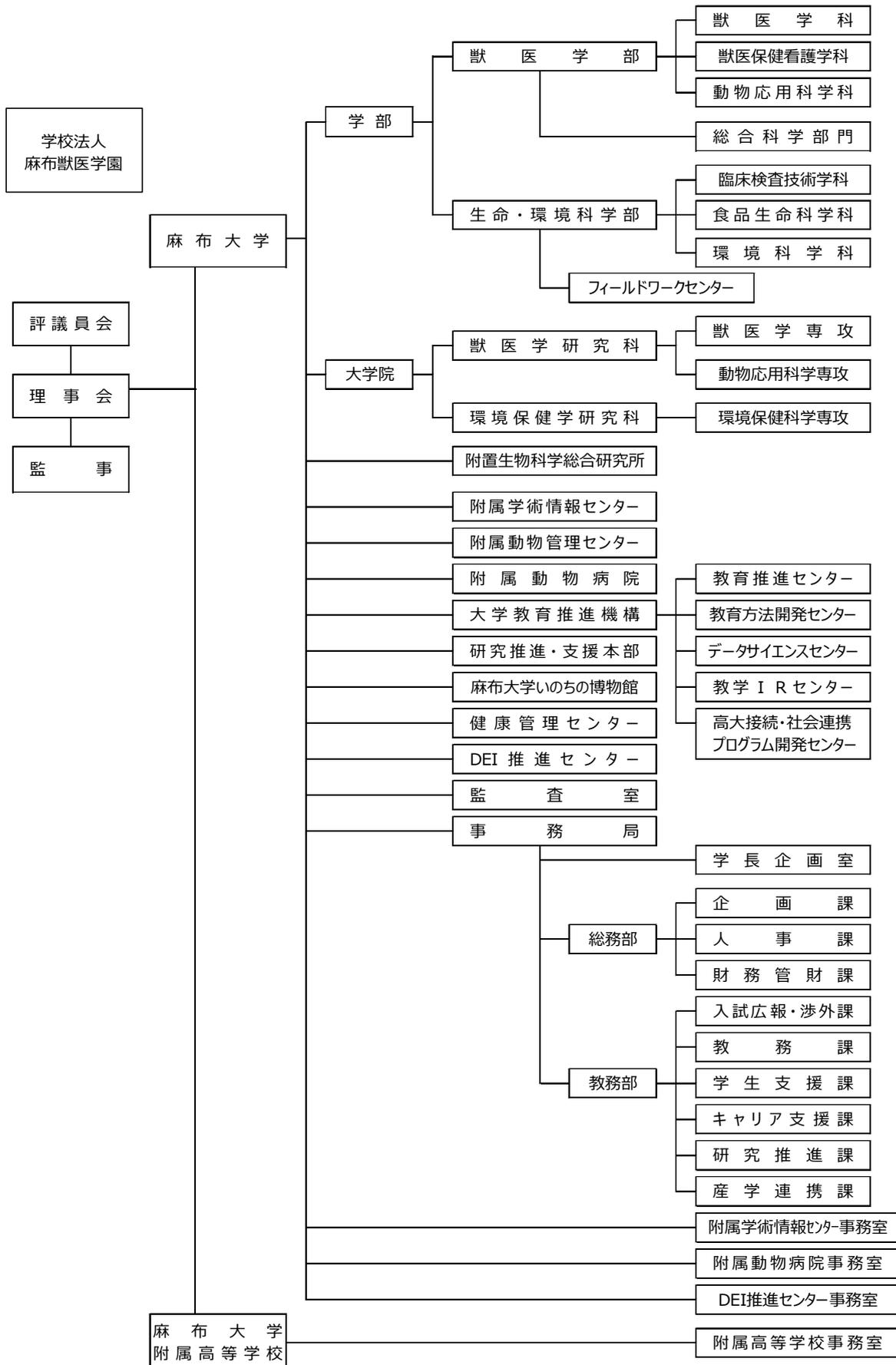
神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-50

目 的

教育基本法及び学校教育法に基づき、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育を施す。

4. 機構図

令和 6(2024)年 5 月 1 日現在



5. 学生・生徒の状況

令和6(2024)年5月1日現在

(1) 入学定員、収容定員、学生・生徒数

(人)

| 学部・学科等                  |                   |           | 入学定員      | 収容定員  | 学生・生徒数 |     |     |     |     |     |       |       |
|-------------------------|-------------------|-----------|-----------|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
|                         |                   |           |           |       | 1年次    | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 6年次 | 合計    |       |
| 学部                      | 学 獣 医 部           | 獣医学科      | 120       | 720   | 149    | 163 | 155 | 135 | 156 | 132 | 890   |       |
|                         |                   | 獣医保健看護学科  | 70        | 70    | 78     | —   | —   | —   | —   | —   | 78    |       |
|                         |                   | 動物応用科学科   | 120       | 510   | 153    | 166 | 135 | 121 | —   | —   | 575   |       |
|                         |                   | 小計        | 310       | 1,300 | 380    | 329 | 290 | 256 | 156 | 132 | 1,543 |       |
|                         | 境 生 命 学 部 環 境 学 部 | 臨床検査技術学科  | 80        | 320   | 93     | 129 | 101 | 76  | —   | —   | 399   |       |
|                         |                   | 食品生命科学科   | 40        | 280   | 50     | 59  | 42  | 59  | —   | —   | 210   |       |
|                         |                   | 環境科学科     | 60        | 300   | 83     | 81  | 69  | 51  | —   | —   | 284   |       |
|                         |                   | 小計        | 180       | 900   | 226    | 269 | 212 | 186 | —   | —   | 893   |       |
|                         | 学部計               |           |           | 490   | 2,200  | 606 | 598 | 502 | 442 | 156 | 132   | 2,436 |
|                         | 研究科               | 研 獣 医 学 科 | 獣医学専攻博士課程 | 10    | 40     | 3   | 6   | 12  | 5   | —   | —     | 26    |
| 動物応用科学専攻                |                   |           | 博士前期課程    | 20    | 40     | 33  | 30  | —   | —   | —   | —     | 63    |
|                         |                   |           | 博士後期課程    | 4     | 12     | 0   | 3   | 1   | —   | —   | —     | 4     |
| 小計                      |                   |           | 34        | 92    | 36     | 39  | 13  | 5   | —   | —   | 93    |       |
| 環 境 研 究 科 保 健 学 科 研 究 科 |                   | 環境保健科学専攻  | 博士前期課程    | 7     | 14     | 7   | 9   | —   | —   | —   | —     | 16    |
|                         |                   |           | 博士後期課程    | 2     | 6      | 0   | 1   | 2   | —   | —   | —     | 3     |
|                         |                   | 小計        | 9         | 20    | 7      | 10  | 2   | —   | —   | —   | 19    |       |
|                         |                   | 研究科計      | 43        | 112   | 43     | 49  | 15  | 5   | —   | —   | 112   |       |
| 附属高等学校                  |                   |           | 258       | 774   | 302    | 262 | 361 | —   | —   | —   | 925   |       |
| 総合計                     |                   |           | 791       | 3,086 | 951    | 909 | 878 | 447 | 156 | 132 | 3,473 |       |

- 1. 令和6年度に獣医保健看護学科を設置
- 2. 令和6年度に入学定員を変更  
(動物応用科学科 130人→120人、  
食品生命科学科 80人→40人、  
環境科学科 80人→60人)

(2) 収容定員充足率の推移

各年度の5月1日時点

| 学部・学科 |                   |          | 令和6年度  | 令和5年度  | 令和4年度  | 令和3年度  | 令和2年度  |
|-------|-------------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 学部    | 学 獣 医 部           | 獣医学科     | 123.6% | 125.6% | 121.8% | 122.5% | 120.4% |
|       |                   | 獣医保健看護学科 | 111.4% | —      | —      | —      | —      |
|       |                   | 動物応用科学科  | 112.7% | 110.8% | 106.0% | 104.2% | 110.8% |
|       | 境 生 命 学 部 環 境 学 部 | 臨床検査技術学科 | 124.7% | 125.6% | 119.4% | 120.3% | 119.4% |
|       |                   | 食品生命科学科  | 75.0%  | 69.4%  | 79.1%  | 93.8%  | 104.4% |
|       |                   | 環境科学科    | 94.7%  | 86.3%  | 90.3%  | 94.4%  | 104.1% |

| 大学院       |                     |          | 令和6年度  | 令和5年度  | 令和4年度  | 令和3年度  | 令和2年度  |
|-----------|---------------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 研 獣 医 学 科 | 環 境 研 究 科 保 健 学 科   | 博士課程     | 65.0%  | 72.5%  | 75.0%  | 55.0%  | 65.0%  |
|           |                     | 動物応用科学専攻 | 博士前期課程 | 157.5% | 142.5% | 125.0% | 97.5%  |
|           | 博士後期課程              |          | 33.3%  | 41.7%  | 16.7%  | 33.3%  | 50.0%  |
|           | 学 環 境 研 究 科 保 健 学 科 | 環境保健科学専攻 | 博士前期課程 | 114.3% | 135.7% | 157.1% | 150.0% |
| 博士後期課程    |                     |          | 50.0%  | 50.0%  | 50.0%  | 33.3%  | 66.7%  |

## (3) 入学者数の推移

(人)

各年度の5月1日時点

| 学部・学科 |          |          | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
|-------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学部    | 獣医学部     | 獣医学科     | 133   | 163   | 146   | 154   | 148   |
|       |          | 獣医保健看護学科 | 78    | -     | -     | -     | -     |
|       |          | 動物応用科学科  | 136   | 171   | 153   | 135   | 137   |
|       | 生命・環境科学部 | 臨床検査技術学科 | 83    | 119   | 99    | 99    | 97    |
|       |          | 食品生命科学科  | 49    | 57    | 49    | 57    | 74    |
|       |          | 環境科学科    | 77    | 70    | 77    | 60    | 83    |

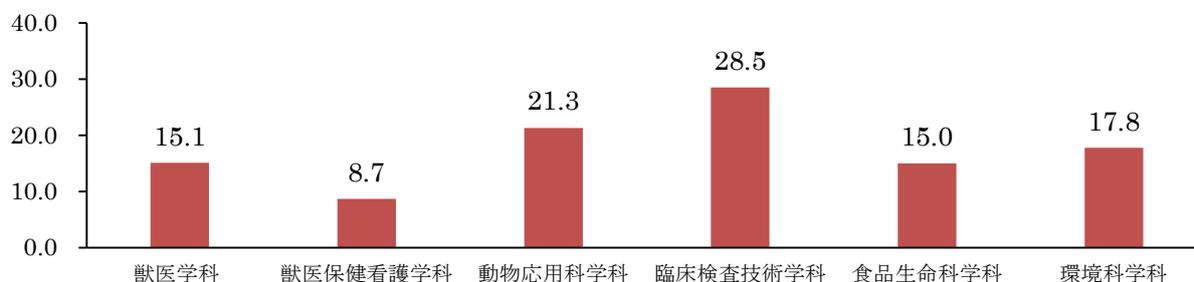
- 令和6年度に獣医保健看護学科を設置
- 令和6年度に入学定員を変更  
(動物応用科学科 130人→120人、  
食品生命科学科 80人→40人、  
環境科学科 80人→60人)

| 大学院             |          |          | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
|-----------------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 研究 獣医学          | 獣医学専攻    | 博士課程     | 3     | 6     | 9     | 9     | 5     |
|                 |          | 動物応用科学専攻 |       |       |       |       |       |
|                 |          | 博士前期課程   | 33    | 34    | 23    | 25    | 15    |
|                 |          | 博士後期課程   | 0     | 3     | 1     | 1     | 0     |
| 学 環 境 研 究 科 保 健 | 環境保健科学専攻 | 博士前期課程   | 7     | 9     | 10    | 12    | 9     |
|                 |          | 博士後期課程   | 0     | 1     | 1     | 1     | 1     |

※令和5年度までの10月期入学者を含む。

## (4) 専任教員一人当たりの学生数 (人)

令和6(2024)年5月1日現在



※1 獣医学科には附属動物病院及び大学教育推進機構(教学 IR センター)所属の専任教員、動物応用科学科には総合科学部門及び附置生物科学総合研究所所属の専任教員、環境科学科には国際コミュニケーション、教職課程、フィールドワークセンター、数理・データサイエンス所属の専任教員をそれぞれ含む。

※2 学長及び特任教員Ⅰ種～Ⅳ種及びⅥ種は除き、副学長及び特任教員Ⅴ種は含む。

## (5) 非正規課程履修者 (人)

令和6(2024)年5月1日現在

| 区分     | 獣医学部 | 生命・環境科学部 | 獣医学研究科 | 環境保健学研究科 | 動物病院 | 合計  |
|--------|------|----------|--------|----------|------|-----|
| 研究生    | 20   | 1        |        |          |      | 21  |
| 研修生    | 1    |          |        |          |      | 1   |
| 研修獣医師  |      |          |        |          | 75   | 75  |
| 聴講生    | 2    |          |        |          |      | 2   |
| 科目等履修生 | 1    | 3        |        |          |      | 4   |
| 外国人研究生 |      |          |        |          |      | 0   |
| 合計     | 24   | 4        | 0      | 0        | 75   | 103 |

※ 特別聴講学生、特別研究学生として各協定大学大学院研究科に派遣する大学院学生は、両研究科ともになし。

## 6. 役員・評議員

令和6(2024)年5月1日現在

|     | 任期 | 定数     | 現員  |
|-----|----|--------|-----|
| 理事  | 4年 | 9~12人  | 11人 |
| 監事  | 4年 | 2人     | 2人  |
| 評議員 | 4年 | 28~34人 | 33人 |

## (1) 役員

| 理事<br>監事 | 氏名   | 常勤<br>非常勤 | 担当職務                      | 業務<br>執行<br>役員 | 現職等                | 就任年月日<br>(重任年月日)         | 寄附<br>行為      | 選任区分             | 備考                 |
|----------|------|-----------|---------------------------|----------------|--------------------|--------------------------|---------------|------------------|--------------------|
| 理事       | 小倉弘明 | 非常勤       | 理事長                       | ●              | 全国肉用牛振興基金協会専務理事    | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第5号 | 学識経験者<br>(理事会選任) | 理事長就任:<br>令和3年9月1日 |
| 理事       | 川上 泰 | 常勤        | 学長理事                      | ●              | 大学長                | 平成28年6月1日<br>(令和3年11月1日) | 第8条第1項<br>第1号 | 大学長              |                    |
| 理事       | 飯田敦往 | 常勤        | 校長理事                      | ●              | 高等学校長              | 令和元年9月4日                 | 第8条第1項<br>第2号 | 高等学校長            |                    |
| 理事       | 村上 賢 | 常勤        | 総務担当                      | ●              | 教授                 | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第3号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 佐原弘益 | 常勤        | 財務担当、<br>情報化推進、<br>学術研究担当 | ●              | 教授                 | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第3号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 折戸謙介 | 常勤        | 動物病院、<br>産学・社会連携<br>担当    | ●              | 教授                 | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第3号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 有賀 誠 | 非常勤       |                           |                | 開業獣医師              | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第4号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 柴田武志 | 非常勤       |                           |                | 開業獣医師              | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第4号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 函城悦司 | 非常勤       |                           |                | 兵庫県淡路獣医師<br>会会長    | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第4号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 小澄正敬 | 非常勤       |                           |                | 熊本県獣医師会会<br>長      | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第4号 | 評議員<br>(評議員会選任)  |                    |
| 理事       | 林 徹  | 非常勤       |                           |                | 共栄火災海上保険<br>株式会社顧問 | 令和2年6月15日                | 第8条第1項<br>第5号 | 学識経験者<br>(理事会選任) |                    |
| 監事       | 小林正明 | 非常勤       |                           |                | —                  | 令和2年6月15日                | 第9条           |                  |                    |
| 監事       | 佐藤 隆 | 非常勤       |                           |                | —                  | 令和2年6月15日                | 第9条           |                  |                    |

## (2) 役員賠償責任保険契約の状況

本学園は、私立学校法第44条の5で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に規定する「役員賠償責任保険契約」を保険会社との間で締結し、当該保険により被保険者の職務執行に関し被保険者が負う損害賠償責任に関する費用等を補填することとしております。

- 加入する保険 : 役員賠償責任保険  
 契約者(団体) : 日本私立大学協会  
 引受保険会社 : 東京海上日動火災保険株式会社  
 加入期間 : 令和5年4月1日~令和6年4月1日  
 被保険者 : 理事、監事及び評議員

## (3) 評議員

| 氏名    | 就任年月日<br>(重任年月日)         | 寄附行為    | 選任区分              | 備考  |
|-------|--------------------------|---------|-------------------|---|
| 白石政美  | 平成21年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               | 議長  |
| 佐藤 泰  | 平成24年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               | 副議長   |
| 五十嵐祐  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 折戸謙介  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              | 評議員会選任理事  |
| 柏崎直巳  | 平成18年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 菊水健史  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 栗林尚志  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 齋藤眞砂子 | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 佐原弘益  | 平成28年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第1号 | 法人職員              | 評議員会選任理事  |
| 武田 守  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 長井 誠  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 増田雄一  | 令和2年6月1日                 | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 村上 賢  | 平成24年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第1号 | 法人職員              | 評議員会選任理事  |
| 柳原新太郎 | 平成24年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第1号 | 法人職員              |   |
| 高橋 徹  | 平成12年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 佐々木亨  | 令和2年6月1日                 | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 安中憲治  | 令和2年6月1日                 | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 有賀 誠  | 平成18年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               | 評議員会選任理事  |
| 横尾清文  | 平成24年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 柴田武志  | 平成28年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               | 評議員会選任理事  |
| 函城悦司  | 平成28年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               | 評議員会選任理事  |
| 松田芳行  | 令和2年6月1日                 | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 松家芳実  | 平成24年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 小澄正敬  | 令和2年6月1日                 | 第18条第2号 | 卒業者               | 評議員会選任理事  |
| 佐藤正広  | 平成28年6月1日<br>(令和2年6月1日)  | 第18条第2号 | 卒業者               |   |
| 小倉弘明  | 令和2年6月8日                 | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) | 理事会選任理事、理事長   |
| 内山武史  | 令和2年6月8日                 | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) |   |
| 谷川 力  | 令和2年6月8日                 | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) |   |
| 中田祐児  | 平成28年6月1日<br>(令和2年6月8日)  | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) |   |
| 林 徹   | 令和2年6月8日                 | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) | 理事会選任理事   |
| 村上 昇  | 令和2年6月8日                 | 第18条第3号 | 学識経験者<br>(評議員会選任) |   |
| 川上 泰  | 平成24年6月1日<br>(令和3年11月1日) | 第18条第4号 | 大学長               | 兼理事 平成24年6月1日～令和3年10月31日寄附行為第18条第1号評議員、令和3年11月1日～第18条第4号評議員 |
| 飯田敦往  | 平成30年4月1日<br>(令和5年4月1日)  | 第18条第5号 | 高等学校長             | 兼理事   |

## 7. 教職員の状況

令和 6(2024)年 5 月 1 日現在

## (1) 大学教員〔常勤〕

(人)

| 学部・学科等      | 学長・副学長      |   | 教授  |      | 准教授 |      | 講師  |      | 助教  |   | 助手 |   | 特任教員 |    | 合計     |       |
|-------------|-------------|---|-----|------|-----|------|-----|------|-----|---|----|---|------|----|--------|-------|
|             | 男           | 女 | 男   | 女    | 男   | 女    | 男   | 女    | 男   | 女 | 男  | 女 | 男    | 女  |        |       |
| 学長          | 1           | 0 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | — | —  | — | —    | —  | 1      |       |
| 副学長         | (1)         | 0 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | — | —  | — | —    | —  | (1)    |       |
| 獣医学部        | 獣医学科        | — | —   | 19   | 2   | 10   | 3   | 11   | 4   | 7 | 2  | 0 | 0    | 0  | 0      | 58    |
|             | 獣医保健看護学科    | — | —   | 4    | 0   | 1    | 1   | 1    | 2   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 9     |
|             | 動物応用科学科     | — | —   | 7    | 0   | 5    | 2   | 3    | 2   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 4      | 23    |
|             | 総合科学部門      | — | —   | 2    | 0   | 4    | 0   | 1    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 7     |
|             | 寄附講座        | — | —   | (2)  | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | (2)   |
|             | 小計          | — | —   | 32   | 2   | 20   | 6   | 16   | 8   | 7 | 2  | 0 | 0    | 0  | 4      | 97    |
| 生命・環境科学部    | 臨床検査技術学科    | — | —   | 3    | 2   | 5    | 1   | 1    | 1   | 1 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 14    |
|             | 食品生命科学科     | — | —   | 2    | 3   | 1    | 0   | 1    | 1   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 1      | 9     |
|             | 環境科学科       | — | —   | 3    | 1   | 3    | 0   | 0    | 0   | 0 | 2  | 0 | 0    | 0  | 0      | 9     |
|             | 学部長付        | — | —   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 1      | 1     |
|             | 国際コミュニケーション | — | —   | 0    | 0   | 0    | 0   | 1    | 1   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 2     |
|             | フィールドワーク    | — | —   | 1    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 1     |
|             | 教理・データサイエンス | — | —   | 0    | 0   | 1    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 1     |
|             | 教職課程        | — | —   | 2    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | 2     |
| 小計          | —           | — | 11  | 6    | 10  | 1    | 3   | 3    | 1   | 2 | 0  | 0 | 0    | 2  | 39     |       |
| 大学院         | 獣医学研究科      | — | —   | (32) | (1) | (19) | (5) | (9)  | (4) | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | (70)  |
|             | 環境保健学研究科    | — | —   | (10) | (6) | (10) | (1) | (3)  | (3) | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | (33)  |
|             | 小計          | — | —   | (42) | (7) | (29) | (6) | (12) | (7) | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 0      | (103) |
| 附置生物科学総合研究所 | —           | — | 1   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | 1      |       |
| 附属学術情報センター  | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | (1)    |       |
| 附属動物管理センター  | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | (1)    |       |
| 附属動物病院      | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 8    | 6  | 14 (1) |       |
| 寄附講座        | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 1    | 0  | 1 (1)  |       |
| 大学教育推進機構    | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 1    | 0   | 0 | 0  | 0 | 2    | 1  | 4 (1)  |       |
| 研究推進・支援本部   | —           | — | (1) | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | (1)    |       |
| 健康管理センター    | —           | — | 0   | (1)  | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | (1)    |       |
| DEI推進センター   | —           | — | 0   | 0    | 0   | (1)  | 0   | 0    | 0   | 0 | 0  | 0 | 0    | 0  | (1)    |       |
| 合計          | 1           | 0 | 44  | 8    | 30  | 7    | 19  | 12   | 8   | 4 | 0  | 0 | 11   | 13 | 157    |       |

麻布大学 教員〔常勤〕

平均年齢 45.9 歳

1. ( )は兼務者を表す。
2. 附属施設等については、専任者以外において、施設等の長(兼務者)を表記する。

## (2) 高等学校教員〔常勤〕(人)

令和6(2024)年5月1日現在

|        | 校長 |   | 副校長 |   | 教頭 |   | 教諭 |    | 契約講師 |   | 合計 |
|--------|----|---|-----|---|----|---|----|----|------|---|----|
|        | 男  | 女 | 男   | 女 | 男  | 女 | 男  | 女  | 男    | 女 |    |
| 附属高等学校 | 1  | 0 | 1   | 0 | 1  | 0 | 34 | 13 | 0    | 0 | 50 |

麻布大学附属高等学校 教員〔常勤〕 平均年齢 39.5歳

## (3) 職員〔常勤〕(人)

令和6(2024)年5月1日現在

|        | 事務局長 |   | 事務局次長 |   | 部長 |   | 課長・事務長<br>室長・主監 |   |      |   | 計  |
|--------|------|---|-------|---|----|---|-----------------|---|------|---|----|
|        | 男    | 女 | 男     | 女 | 男  | 女 | 男               | 女 | 男    | 女 |    |
| 麻布大学   | 1    | 0 | 0     | 1 | 1  | 0 | 14              | 3 |      |   |    |
| 附属高等学校 | 0    | 0 | 0     | 0 | 0  | 0 | 0               | 0 |      |   | 1  |
| 合計     | 1    | 0 | 0     | 1 | 1  | 0 | 14              | 4 |      |   |    |
|        | 補佐   |   | 主査    |   | 主任 |   | 一般職             |   | 契約職員 |   | 計  |
|        | 男    | 女 | 男     | 女 | 男  | 女 | 男               | 女 | 男    | 女 |    |
| 麻布大学   | 4    | 1 | 14    | 6 | 11 | 5 | 8               | 6 | 0    | 6 | 81 |
| 附属高等学校 | 0    | 0 | 0     | 0 | 2  | 0 | 0               | 1 | 0    | 0 | 4  |
| 合計     | 4    | 1 | 14    | 6 | 13 | 5 | 8               | 7 | 1    | 7 | 85 |

麻布大学 職員〔常勤〕 平均年齢 41.5歳

麻布大学附属高等学校 職員〔常勤〕 平均年齢 37.0歳

## 常勤教職員【(1)～(3)の実人数の合計と平均年齢】

|                        |                       |                          |
|------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 男 205人<br>(平均年齢 44.5歳) | 女 87人<br>(平均年齢 41.2歳) | 総合計 292人<br>(平均年齢 43.5歳) |
|------------------------|-----------------------|--------------------------|

## (4) 非常勤教職員(人)

令和6(2024)年5月1日現在

| 学部等      | 非常勤講師 | 非常勤職員 | 合計  |
|----------|-------|-------|-----|
| 獣医学部     | 42    | 29    | 71  |
| 生命・環境科学部 | 54    | 11    | 65  |
| 附属高等学校   | 30    | 0     | 30  |
| 事務組織     | 0     | 45    | 45  |
| 合計       | 126   | 85    | 211 |

1. 非常勤講師欄は、両学部を兼務していても代表身分に片寄せした実人数である。
2. 非常勤講師には、後期のみ授業を担当する者及び業務委託による講師を含む。
3. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

## II 事業の概要

### 1. 基本経営方針 ミッションステートメント

私たちは、学生・生徒の成長を第一に考え、「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神とし、人と動物と環境の共生を探求する「地球共生系」の実現を目指すことを教育理念に掲げ、常に学生・生徒の夢と希望を正面から受け止め、社会の変化を見通して、社会に貢献するよう、教育研究を実践していきます。

### 2. 将来に向けてのビジョン

#### 学校法人麻布獣医学園 中期目標・中期計画 [令和3年度～令和7年度]

麻布獣医学園の中期目標・中期計画は、平成16年度に第1期を策定以来、令和2年度までに5年又は6年ごとに3期にわたり策定・遂行してきました。

第4期中期目標・中期計画は、令和3年度からの5年間とし、令和7年度に学園創立135周年を迎える上で、以下のとおり学園の諸課題及び取り組むべき事項を整理し策定しました。

##### 《学園の課題》

- ・教育の質の転換（「一律の学生対応」から「個々の学生対応」への取組等）
- ・数値目標（KPI）の設定とPDCAの実施
- ・教職員の共通理解と学園運営への参画
- ・将来を見越した財政基盤の確立
- ・次期認証評価の結果を反映できるよう、受審サイクルに適した中期計画の想定

##### 《社会の状況》

- ・少子高齢化、入学定員の厳格化、私学助成の多様化、大学版ガバナンスコードの策定
- ・ICT教育、SDGs、Society5.0、グローバル化、新型コロナウイルス禍での新たな教育への発展等

##### 《私立学校法改正（令和2年4月1日施行）への対応》

- ・中期的計画が義務化（期間：原則5年以上）
- ・認証評価（指摘された改善事項含む）の結果を踏まえたもの
- ・評議員会での意見聴取
- ・データやエビデンスに基づく計画の作成等

第4期は、これらの諸課題を踏まえ『時代を切り拓くフロントランナーの育成【実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した「実学の麻布」を達成する（5A-2025）】』を第4期のVisionに掲げ、学園創立150周年を迎える2040年（18歳人口が現在の7割に相当する約77万人）においても、社会から高い評価を受ける学園の礎を築くための5年間と位置づけます。

学校法人麻布獣医学園 第4期中期目標・中期計画（令和3年度～令和7年度）

Vision  
時代を切り拓くフロントランナーの育成・時代に即した「実学の麻布」の達成

### Vision達成に向けた5つの方針



#### Vision 達成のための5つの方針 (5A)

- A1 大学教育**
  - 学生の成長を第一に
  - 学修者本位、教育の質向上、SDGs、Society5.0等の新たな社会を担う人材輩出
- A2 研究・社会連携**
  - 研究成果の還元と社会連携
  - 学際型、複合的な課題解決、研究成果の社会還元
- A3 社会的価値**
  - 大学認知度の向上
  - 社会的価値、大学認知度、社会・地域の教育研究拠点
- A4 高校教育**
  - 生徒の成長を第一に
  - 新しい価値の創造、豊かな人間性、責任ある大人への育成、進学実績向上
- A5 学園運営・経営**
  - 教育の展開と経営の安定化
  - 特色ある教育、獣医療従事者育成、最新獣医療の開発提供、教職協働、財政基盤安定

#### 令和3年度～令和7年度のスケジュール



#### ～「実学の麻布」としての5つの方針～ (5A-2025)

|                     |   |
|---------------------|---|
| <b>建学の精神</b>        | 学理の討究と誠実なる実践  |
| <b>ミッション (教育理念)</b> | 大 学：人と動物と環境の共生を追求する「地球共生系」の実現<br>高 校：夢を語り、学問を追究・実践し、誠実なる校園の下、平和社会に貢献する  |
| <b>ビジョン</b>         | 時代を切り拓くフロントランナーの育成<br>実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した「実学の麻布」を達成する  |
| <b>ビジョン達成に向けた5A</b> | <p><b>A1 大学教育《学生の成長を第一に》～Academic Policy～</b></p> <p>(1) 学修者本位の教育への転換により、学生の成長を第一に考え、真摯に教育と向き合い、教育の質の向上と教育改革を進める。</p> <p>(2) 時代に求められる学問分野に視野を広げ、SDGs、Society5.0等の社会環境で実践できる新たな社会を担う人材を輩出する。</p> <p><b>A2 研究・社会連携《研究成果の還元と社会連携》～Advanced Research～</b></p> <p>(1) 地球共生系、One Healthの実現に向けた「実学の麻布」として、時代の先駆けとなる研究ならびに社会・地域と連携した研究を推進する。</p> <p>(2) 学際型（教員間の連携、学部横断型）の取組、産業界との共同研究等により、複合的な課題を解決できる研究を推進するとともに、研究成果を学修者・社会・地域へ還元する。</p> <p><b>A3 社会的価値《大学認知度の向上》～Abundant Value～</b></p> <p>(1) 教育、研究、社会貢献活動の取組を適切に発信し、学園の社会的価値及び大学認知度を向上させて、持続可能な社会の実現に向けて、社会や地域における教育や研究の拠点となる。</p> <p><b>A4 高校教育《生徒の成長を第一に》～Affiliated High School～</b></p> <p>(1) 生徒の成長を第一に考えた多彩な教育プログラムを構築し、ICTを活用した主体的・協同的な授業の実践により、新しい価値を創造できる人材を育成する。</p> <p>(2) 文武両道を基軸に、人権を尊重する豊かな人間性を育み、責任ある大人へと成長させる学校として社会に貢献する。</p> <p>(3) 新しい社会を見据えた実践的なキャリア教育を推進し、生徒の進路意識の醸成及び高大接続改革を踏まえて進学実績を向上させる。</p> <p>(4) インターネットを効果的に活用した広報活動を展開し、定員充足を基本とした入学数を確保する。</p> <p><b>A5 学園運営・経営《教育の展開と経営の安定化》～Activation of organization～</b></p> <p>(1) 特色ある教育を推進し、持続的に発展する学園の財政基盤の礎を構築する。</p> <p>(2) 附属動物病院においては、教育病院として学修者の育成と最新の獣医療の開発・提供に励み、社会・地域への貢献と学園運営に寄与する動物病院経営を推進する。</p> <p>(3) 教職員の人材育成を推進し教職協働を深化させ、教職員の情熱と努力により、学園運営の活性化を推進する。</p> |

## 3. 当年度事業計画の実施状況

### (1) 総評

令和5年度は第4期中期目標・中期計画（以下「第4期」といいます。）の3年目に当たり、各部局において合計83項目の事業計画に取り組んだところです。全体の進捗率は約61%と第4期のビジョンとして掲げる「時代を切り拓くフロントランナーの育成【実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した『実学の麻布』を達成する】」の達成に向けて概ね順調に推移しています。一方、ビジョン達成に向けた方針ごとの進捗率にはやや幅が見受けられるため、令和5年度の成果と課題及び第4期における前半3年間の取組に基づいた中間評価を踏まえ、各部局において各事業計画の今後の方向性を確認するとともに、必要に応じて取り組む方策の見直しを行うことで、目標達成を目指します。

(2) 令和5年度事業計画に対する自己評価及び第4期中期目標・中期計画の進捗状況（進捗率）

① 令和5年度事業計画に対する自己評価及び学園評価

各部署の自己評価の基準として、S評価が「事業計画を上回って実施している」、A評価が「事業計画を十分に実施している」、B評価が「事業計画を十分に実施していない」、C評価が「事業計画を実施していない」と定義しており、令和5年度事業計画に基づく取組状況の自己評価は以下のとおりです。

| 評価 | 事業計画数 | 構成比率 | 前年度対比 |
|----|-------|------|-------|
| S  | 10    | 12%  | 9%    |
| A  | 54    | 65%  | -1%   |
| B  | 13    | 16%  | -6%   |
| C  | 6     | 7%   | -1%   |

前年度対比B評価以下の構成比率がやや減少するとともにS評価の構成比率が増加していることから、令和5年度事業計画に対する取組状況は概ね良好であったと判断できます。

② 第4期中期目標・中期計画の進捗状況（進捗率）

進捗率の考え方として、3年目の取組を終えて60%前後であれば、目標達成に向けて順調に推移していると判断できます。令和5年度までの取組状況に対する進捗率は以下のとおりです。

| 方針         | 事業計画数 | 進捗率 | 前年度対比 |
|------------|-------|-----|-------|
| A1 大学教育    | 27    | 63% | + 17% |
| A2 研究・社会連携 | 7     | 56% | + 20% |
| A3 社会的価値   | 7     | 52% | + 18% |
| A4 高校教育    | 20    | 58% | + 29% |
| A5 学園運営    | 25    | 66% | + 21% |
| 全体         | 86    | 61% | + 21% |

事業計画全体の進捗率は約61%と概ね順調に推移しており、特に「A1 大学教育」は63%、「A5 学園運営」は66%と目安を上回る水準にある一方、「A3 社会的価値」は52%とやや見劣りしています。主な要因として新型コロナウイルス感染症の影響により、社会連携事業を全面的に取りやめる期間が発生したことが挙げられますが、今後は新たな体制の下で事業計画の進捗を図り、目標の達成を目指す必要があります。

〈学校法人麻布獣医学園 令和5年度 事業計画一覧（第4期中期目標・中期計画アクションプラン）〉

| 計画 No.      | A1<br>大学教育                    | 計画 No.      | A2<br>研究・社会連携                | 計画 No.     | A3<br>社会的価値                   | 計画 No. | A4<br>高校教育            | 計画 No. | A5<br>学園運営・経営                |
|-------------|-------------------------------|-------------|------------------------------|------------|-------------------------------|--------|-----------------------|--------|------------------------------|
| A11101      | 学修ポートフォリオの導入と普及<br>★重点        | A21101      | 査読付論文3本/3年を実現する教員割合増加        | A31101     | 地域と連携した動物保護体制の支援              | A41101 | ICT教育の推進              | A51101 | 入学定員の確実な確保(一般入試・共通テスト)       |
| A11102      | 在学生調査の実施・調査結果の活用              | A21201      | 社会・地域と連携した実践教育               | A31102     | 包括協定に基づく活動の強化(市良大学の開催等)       | A41201 | 英語力の醸成と定着             | A51102 | 入学定員の確実な確保(推薦等入学試験)          |
| A11103      | 卒業生調査の実施・調査結果の活用              | A21202      | 大学と社会を繋ぐイベント                 | A31201     | 博物館を利用した取組(学生・一般向け)           | A41301 | 習熟度別教育の実践             | A51103 | 学部学科の改組等の教育組織改革              |
| A11104      | リテラシー・コンピテンシー調査結果の活用          | A22101      | 「ヒトと動物の共生科学センター」の活動を推進       | A31202     | 博物館を利用した取組(小学生向け)             | A41401 | 補習授業の充実               | A51104 | 博物館の教育への活用                   |
| A11201      | 習熟度別クラス編成・全学共通教養教育の充実<br>★重点  | A22102      | 産官学共同研究の推進                   | A31203     | 博物館を利用した取組(中高生向け)             | A41501 | 教員研修の充実               | A51201 | 附属高校との充実した連携<br>★重点          |
| A11202      | アセスメント・プラン<br>重点              | A22103      | 協定等に基づく学・学(大学間)連携研究の推進       | A31301     | 認知度向上に向けた情報発信の強化              | A42101 | 生徒の人格の尊重              | A51202 | 新たな協定校の開拓<br>重点              |
| A11203      | ティーチング・ポートフォリオ(TP)の活用<br>重点   | A22104      | 協定等に基づく研究活動を推進               | A31302     | 教育・研究施設建物の紹介(情報公開)            | A42201 | いじめ防止教育の推進            | A51401 | 5年間で収益源となる事業の整理・調査・提案        |
| A11204      | 参加型臨床実習(産業動物)の維持と充実<br>重点     | <b>7事業</b>  |                              | <b>7事業</b> |                               | A42301 | 教育環境整備                | A52101 | 動物病院の経営改善の取組<br>重点           |
| A11205      | DXの推進とICTの活用による新たな授業の構築<br>重点 |             |                              |            |                               | A42401 | 部活動の適切な運営・管理          | A52102 | 動物病院業務体制の整備<br>重点            |
| A11206      | 実践的FDの実施                      |             |                              |            |                               | A42501 | 学校安全管理と防災訓練           | A52103 | 動物病院改修に向けた構想・方針の策定と改修<br>重点  |
| A11207      | 代替動物利用の一層の推進<br>重点            |             |                              |            |                               | A42601 | 後援会、同窓会との連携・開かれた学校づくり | A52104 | 動物病院改修工事の早期着工(参加型臨床実習)<br>重点 |
| A11301      | 学部・大学院一貫教育の実施<br>★重点          |             |                              |            |                               | A42701 | 地域貢献活動                | A52201 | 馬の診療の充実化<br>重点               |
| A12101      | 出る杭を引き出す教育プログラム<br>★重点        |             |                              |            |                               | A43101 | 進路意識の向上、キャリア教育        | A52202 | 動物病院webサイトの改修【令和4年度 事業完了】    |
| A12201      | 新規入学者選抜対応<br>重点               |             |                              |            |                               | A43201 | 難関大学合格率の向上<br>重点      | A52301 | 学園内外に向けた教育セミナー               |
| A12301      | 学部、研究科を越えた横断的な資格取得<br>重点      | A43301      | 麻布大学との高大連携                   | A52302     | 市民向け公開講座の開講                   |        |                       |        |                              |
| A12302      | 実践的ジェネラリスト育成プログラムの実施<br>★重点   | A43401      | 新大学入試への対応<br>重点              | A53101     | 事務職員ポートフォリオ(スキル等可視化)          |        |                       |        |                              |
| A12303      | 動物・生命科学データサイエンスセンター<br>★      | A43501      | 保護者への情報提供                    | A53102     | 事務職員の専門知識・能力向上の取組             |        |                       |        |                              |
| A12401      | フィールドワーク教育の推進<br>重点           | A44101      | 定員充足を基本とした入学者数の確保<br>重点      | A53103     | 大学運営の現状理解の浸透・教職協働             |        |                       |        |                              |
| A12402      | PBL学習について                     | A44201      | 学校説明会をはじめとする広報活動             | A53201     | 特定資産の純増計画及び資産運用の見直し           |        |                       |        |                              |
| A12403      | SDGsに鑑みた学習の充実                 | A44301      | インターネットの一層の活用ならびに充実          | A53202     | 寄付金事業(未来募金)の運用                |        |                       |        |                              |
| A12501      | 企業調査の継続的な実施<br>重点             | <b>20事業</b> |                              | A53203     | 既存施設の有効活用                     |        |                       |        |                              |
| A12502      | 「キャリア支援英語」の導入及び実施<br>重点       |             |                              | A53204     | 評議員選挙制度・時代に対応した理事体制           |        |                       |        |                              |
| A12503      | アセスメントテストによるジェネリックススキル測定      |             |                              | A53301     | 出産・育児・介護等の両立支援に向けた取組          |        |                       |        |                              |
| A12504      | 就職率向上に繋がる支援活動の実施              |             |                              | A53401     | 意思決定方法の簡略化                    |        |                       |        |                              |
| <b>24事業</b> |                               | A53501      | キャンパスマスタープラン第IV期の構築と実行<br>重点 | A53502     | 大学及び附属高校の教育環境の整備修繕            |        |                       |        |                              |
|             |                               | A53601      | 情報セキュリティ対策実施手順の策定<br>重点      | A53602     | 情報セキュリティに対応するCSIRTの体制整備<br>重点 |        |                       |        |                              |
|             |                               | <b>25事業</b> |                              |            |                               |        |                       |        |                              |

重点：本学における重点事業

★：文部科学省「出る杭を引き出す教育プログラム」関連事業

A1. 大学教育

| 計画No.  | 事業計画名                | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画  | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|----------------------|--|------|---|---|-------|------|-----|
| A11101 | 学修ポートフォリオの導入と普及      | 入学から卒業までの学生の情報、学修成果を総合的に可視化するものとしてポートフォリオを導入する。  | 3年目  | 「麻布出る杭プログラム」で、学生の学修状況把握のために試行予定である「Azamoodle」システム活用の可能性を探る。また、実施中のサイエンスリテラシーとコンピテンシーのプログラム試行状況、解析結果を踏まえる。さらに学部学科改組の進展を考慮して学修ポートフォリオの導入時期を見定める。              | 動物応用科学科、食品生命科学科及び環境科学科においてAzamoodleの正式稼働を行った。StepGPA(特徴量の可視化)はデモデータにて開示可能なことを確認し、動物応用科学科の後期科目の実データを回収し、2月にシステム稼働を確認した。また、アセスメントテストを全学で実施したほか、本学における学修成果の可視化等に係る指標とすることを全学決定した。  | 15%   | C    | 継続  |
| A11102 | 在学生調査の実施・調査結果の活用     | 継続して在学生調査を実施することにより、学生の学修時間や満足度、学修行動等のデータを収集・蓄積する。また、調査結果や他の学生データ等との結合により、学修成果の総合的な可視化や教育改善につなげる。  | 3年目  | 継続して全学部学生を対象に在学生調査を実施し、全体の回答率を80%、最終学年については回答率85%を超えるよう取り組む。調査結果は、「学修時間の把握」、「生活満足度・成長実感度」、「ディプロマポリシーの学習成果の把握」としてまとめて、教務課と連携して、各学部学科に対して、教育改善に活用するよう、依頼する。   | 令和5年9月開催の教育研究会議で調査結果の共有を図った上で、教育研究会議から各局局に対し、当該結果に基づき教育内容を検証するよう指示するとともに、各局局からの報告内容を検証するなど、全学的な教学マネジメント体制によるPDCAサイクルを適切に機能させることができた。なお、令和5年度調査における回答率は、全体で90.1%、最終学年で91.5%となった。   | 60%   | A    | 継続  |
| A11103 | 卒業生調査の実施・調査結果の活用     | 学生に在学中に身に付けさせる学力や資質、能力及び養成しようとする人材像に照らして、学生の進路・就職状況等から、教育効果の検証、本学教育に対する満足度等を把握する。これに基づき、教育改善、社会で必要とされる人材像のニーズ把握等に活用する。   | 3年目  | 卒業生調査の結果を集約することで、教育改善や社会で必要とされる人材像のニーズ把握等を行い、教務課と連携の上、教育改善に活用するよう各学部学科に依頼する。また、より信頼性の高い調査結果が得られるよう、ハガキによる調査依頼の方法を見直すなど、回答率の向上に向けた検討を行う。                     | 令和5年9月開催の教育研究会議で調査結果の共有を図った上で、教育研究会議から各局局に対し、当該結果に基づき教育内容を検証するよう指示するとともに、各局局からの報告内容を検証することで、全学的な教学マネジメント体制によるPDCAサイクルを適切に機能させることができた。なお、令和5年度調査における回答率は、9.2%となった。   | 50%   | B    | 継続  |
| A11104 | リテラシー・コンピテンシー調査結果の活用 | 外部アセスメントテストを用いて直接的に学生のジェネリックスキル(リテラシー、コンピテンシー)を測定、入学後のスキルの伸長等を確認することで、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学修成果の把握及び評価、教育改善につなげる。また、測定結果等の可視化及び学生へのフィードバックにより、学生自身が自らの成長度の確認や自己分析を行い、学修者本位の教育に移行するよう環境を整える。 | 2年目  | 令和5年度から全学的に実施する大学独自のアセスメントテスト(サイエンスリテラシー・コンピテンシーテスト)を採用し、ディプロマ・ポリシーに明示した学修成果の関連付けを行った上で、教学IRセンターと連携して学年比較等の分析により、学修成果を達成するための課題を洗い出し、その結果を教育改善に役立てるよう働きかける。 | 大学独自のアセスメントテスト(サイエンスリテラシー・コンピテンシーテスト)を正式に全学共通の基幹調査として位置付け、令和5年度から全学生を対象に実施することを教育研究会議で決定し、全学年のデータにより、学修成果の把握・評価する土台を整えた。最終学年を除く学生の結果については分析を行い、FD研修を通じて各学部学科に共有することで、教育改善につなげた。なお、ディプロマ・ポリシーの側面からの学修成果の把握・評価は、カリキュラムマップデータや学生の科目成績データを用いるなど、別の方法で取り組んだ。 | 50%   | A    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名                      | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|----------------------------|---|------|---|---|-------|------|-----|
| A11201 | 習熟度別クラス編成を取り入れた全学共通教養教育の充実 | 全学共通教養教育の体制を整備し、習熟度に応じたクラス編成を行う。秀でた学生については、その能力を更に引き出す教育を行うとともに、多様な資質を持った入学者に対して、高いモチベーションを維持できるような学習サポートを実践する。また、全ての科目に適用する成績評価基準の平準化を目指す。 | 3年目  | 令和6年4月設置予定の獣医保健看護学科及び令和8年4月に予定している獣医学科を除く既存学科の改組の方針を受け、現行のカリキュラムも含めて「カリキュラム改正」及び「3ポリシーの改正」を検討するとともに、「教養教育」及び「全学共通教育」に習熟度別教育ができる教員の配置を含め、検討を行う。                                  | 全学共通教養教育の体制を整備することを目的に、令和6年4月から総合科学部部門を設置し、各学科と連携して基礎教育科目のカリキュラム作成及び授業を担当することを確認した。このことに伴い、カリキュラムの見直しや、習熟度別教育を実施できる教員の配置を含めた検討を行う予定であるが、現在まで導入には至っていない。                       | 10%   | C    | 継続  |
| A11202 | アセスメント・プラン                 | 令和元年度に作成したアセスメント・ポリシーに基づき、各学部、各研究科それぞれの評価指標を決定し、点検評価を行う。  | 3年目  | 令和4年度に引き続き、外部の「アセスメントテスト(GPS-Academic)」を導入し、キャリア支援課と連携の上、実施する。  | 「学習到達度調査」として、外部の「アセスメントテスト(GPS-Academic)」を実施したほか、令和5年度から全ての在学者に向けてサイエンシテラシーテスト及びコンピテンシーテストを実施した。  | 80%   | A    | 継続  |
| A11203 | ティーチング・ポートフォリオの活用          | 教育改善に積極的に取り組む手段の一つとして、ティーチング・ポートフォリオの作成を促す。教員は自身の授業を検証し、学習効果を高める授業方法の改善を展開する。また、内部質保証システムへ活用する。   | 3年目  | 新任の教員にティーチング・ポートフォリオの作成を促すとともに、作成済みの教員には見直しのためのFD研修を開催し、このサイクルを確立する。また、全教員がティーチング・ポートフォリオを活用できるよう教育方法開発センターを中心に検討を進め、各自の教育改善につながる取組を行う。   | 令和6年2月に教育方法開発センターを中心に開催したFD研修「ティーチング・ポートフォリオ(ブラッシュアップ研修)」を受講した上で、教員が見直しを行い、教育理念に基づいた目標を設定した。  | 80%   | A    | 継続  |
| A11204 | 参加型臨床実習(産業動物)の維持と充実        | 学内施設のみで産業動物の参加型臨床実習を実施しているのは都市部の獣医系大学では本学のみで、大学のPRポイントとして獣医希望学生への魅力となる。新たに整備される牛舎を活用し、昨今の牛の入院頭数減少に対応する。                                     | 3年目  | 臨床担当教員の補充を進め、参加型臨床実習の日数と時間を増やすことで、内容を更に充実させる。牛舎の牛1頭に人工授精し、妊娠を確認、令和5年4月に分娩予定である。1年に2〜3頭計画的に分娩させ、新牛舎とLAVECの実習場を利用し、周産期の飼養管理や疾病診断と治療などにも利用する計画である。                                 | 動物病院の牛症例を用いて、獣医学科6年次配当の「産業動物アドバンス実習」(前期)を5人の学生に提供した。獣医学科5年次配当の「産業動物臨床実習」(後期)は、令和4年度と同様に対面実習日は4日間だが朝夕の診療にも全員参加させ、これとは別に症例検討会も再開した。X線検査は週2〜3回、その他CT検査や超音波検査も行い、多くの学生が画像診断を体験した。 | 60%   | A    | 継続  |
| A11205 | DXの推進とICTの活用による新たな授業の構築    | コロナ禍により急速に進んだ遠隔授業(オンライン授業)の質向上のため、学習効果を高めるシラバスの充実に取り組むとともにLMSシステムを効果的に活用した授業を構築する。同時にDXを推進し、授業コンテンツの充実を図る。                                  | 3年目  | 「デジタル活用高度専門人材育成事業(補助金)」の採択によって購入した教育機器を活用した教育方法を主体的に実践する。例として、令和4年度に開発を進めた獣医療トレーニング用VRソフトウェアやデジタルマッピング技術等を正課授業のコンテンツの一つとして活用していく。また、GPSによる野生動物の探査実習、環境データのデジタルモニタリングの実習などに活用する。 | 令和4年度に開発を進めた獣医療トレーニング用VRソフトウェア(VETS VR〜牛の分娩介助〜)やデジタルマッピング技術等を正課授業のコンテンツの一つとして活用したほか、GPSによる野生動物の探査実習、環境データのデジタルモニタリングの実習などに活用した。   | 80%   | A    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名                       | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性                    |
|--------|-----------------------------|--|------|---|---|-------|------|------------------------|
| A11206 | 実践的ファカルティ・ディベロップメント (FD)の実施 | 授業及び研究指導の内容・方法、カリキュラム等の改善のため、座学にとどまらず、ワークショップ形式を取り入れたFDに取り組む。  | 3年目  | 引き続き大学教育推進機構の教育方法開発センターを中心に、講義形式とワーク形式の教員対象の研修会の企画・検討を行い、今後の教育及び研究指導の改善につながる取組を行う。  | 令和5年度は、「資格取得学部におけるFD(学生のパフォーマンス評価等)」、「本学ディプロマ・ポリシーに関する分析結果及び学生の学修成果の可視化に関するFD」、「AzaMoodleの行動データを用いたドロップアウト懸念者予測モデルFD」のほか、「ティーチング・ポートフォリオ(ブラッシュアップ研修)」を開催した。   | 70%   | A    | 継続                     |
| A11207 | 代替動物利用の一層の推進                | 獣医師、動物応用科学の専門家養成に当たり、代替シミュレーターを活用することで、生体動物への苦痛の軽減の配慮及び生体動物の減少を目指すとともに、先導的な動物福祉3Rsの実践を学生、教員ともに体感することを目的とする。  | 3年目  | ①犬：保護動物を用いた避妊去勢プログラムを継続して実施する。気管挿管のモデル標本を利用した実習は達成できたため、令和5年度は更なるシミュレーターの充実を図る。基礎系では、実習内容の見直しや多様な教材の活用により、生体を導入しない実習を維持していけるように検討を継続して行う。<br>②齧歯類：動物数削減の取組だけでなく、代替法を用いる教育内容の充実化を図る。引き続き、シミュレーターと解剖3Dアプリケーション及び動画資料を視聴するためのタブレット端末並びに動画資料(実験動物の取扱い、投与等の施術)の項目を増やす。 | ①犬：引き続き保護動物を使用して行い(新たに実習のため購入した動物はゼロ)、保護動物避妊去勢実習は二年目となり安定して実習を行えるようになってきている。麻酔実習を代替法(マネキン、360度動画、VRシミュレーター)に置き換えたため頭数に変更はないが、使用頻度としては半分減少した。基礎系では、令和4年度に引き続き使用頭数はゼロであった。<br>②齧歯類：コロナが明け対面実習が定着し、動物を用いた実習が完全再開されたことで、令和5年度の使用動物数は令和4年度に比して増加したが、起点的令和元年度実績の47%に減少した。シミュレーターとタブレット整備は充実しつつあり、端末数は微増するにとどまっているが、動画資料(動物のハンドリング、保定法及び投与方法)の項目数の増加を推進した。 | 74%   | A    | 継続                     |
| A11301 | 学部・大学院一貫教育の実施               | 「出る杭を引き出す教育プログラム」を念頭に入れて、「麻布出る杭プログラム」に参加した学生を対象に学部在籍時から大学院科目の履修機会を与え、学部・大学院一貫教育に取り組む。  | 3年目  | 引き続き、本学の大学院進学を希望し、資格を満たす学部学生に大学院の授業科目の「早期履修制度」を周知するとともに、希望する学業成績優秀な学部学生に対して、履修する機会を提供する。また、学部教育と大学院教育との連携を図り、大学院入学前の時期を有効に活用し、学習を進める環境を整える。   | 令和5年度は、学士課程と修士課程の一貫教育を導入した。大学院授業科目の早期履修を行い大学院に進学した10人の学生の内、獣医学研究科修士課程1年次で論文発表を終えた6人が初めて早期修了したほか、早期履修者として17人(獣医学部:16人、生命・環境科学部:1人)を受け入れ、その内15人が本学大学院に進学した。   | 80%   | A    | 継続                     |
| A12101 | 出る杭を引き出す教育プログラム             | 「高大接続教育プログラム」「麻布出る杭研究プロジェクト」「大学院早期履修プログラム」等を体系的に展開することで、高校-大学-大学院の壁を下げたシームレスな修学体制の整備を目指す。並行して「サイエンスリテラシー・コンピテンシーテスト」等を活用して、学生の個性や修学状況を可視化し改善に生かす環境も整備し、「ヒト・動物・環境の持続的健康社会構築のために世界をリードできる人材の育成」のための教育プログラムを確立する。 | 3年目  | 令和4年度の実施内容に加え、資格学料を除く3学科で、「出る杭認定科目」を設定し、高校3年生及び学部学生1年次から運用を開始する。「出る杭認定科目」では、修学カラーマップ・StepGPAを実装したAzamoodleをLMSとして採用し、学生が個々の学力の特性を知り、自ら学んでいくシステムの一助とする。また、A12302「実践的ジェネラリスト育成プログラムの実施」は、本事業の一部であることから、令和5年度の事業見直しの際に、本事業の一部として組み入れることを提案する。                        | 関係規則を制定し、本プログラムを体系的に展開できるよう整備した。資格学料を除く3学科でAzamoodleを導入し、学修成果の可視化・分析のための整備を進めた。また、海外研究支援を開始したほか、令和4年度に整備した本プログラム参加者向けの入試制度を設定するとともに、同入試制度の志願者及び入学者を確保した。文科省の中間評価及び令和5年度外部評価では最高の「S」評価を獲得することができた。   | 80%   | S    | 統合<br>A12101<br>A12302 |

| 計画No.  | 事業計画名  | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度の取組計画  | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性                    |
|--------|--|---|------|---|--|-------|------|------------------------|
| A12201 | 新規入学学生選抜方法<br>学力3要素を多面的・総合的に評価する新規入学学生選抜方法への対応 | 「新学習指導要領」に対応した新入試は令和6年度中に実施するため、2年前となる令和4年度中に告知、令和6年度上期までに実施体制を構築する。学内外における情報整理、外部コンサルタント等の助言を踏まえて、時代に即した入学試験を実現する。 | 3年目  | 「新学習指導要領」に準拠した新しい教科書を基に、令和5年度の各科目の問題作成委員に内容を精査してもらい、出題科目等の変更について受験生に向けて情報発信する。また、旧課程に配慮した出題範囲となる経過措置について検討する。   | 「新学習指導要領」に準拠した高校2年生までの新しい教科書を購入した。また、志願者を減らさないため現行の試験科目を維持すること、愛玩動物看護師養成大学として正式な行政手続が完了したことに伴い、大学ホームページ(受験生サイト)の更新を行い、獣医保健看護学科の情報を掲載した。  | 50%   | A    | 継続                     |
| A12301 | 学部、研究科を越えた横断的な資格取得プログラムの設定                     | 令和5年度から予定しているカリキュラム改正に向けて、学部横断型のプログラムにより取得できる資格のコース設定に取り組む。また、大学院の資格取得支援についても検討を行う。                                 | 3年目  | 令和6年4月設置予定の獣医保健看護学科及び令和8年4月に予定している獣医学科を除く既存学科の改組の方針を受けて、学部横断型プログラムにより取得できる資格のコース設定に向けた構想の検討を継続するとともに、「麻布出る杭プログラム」においてITパスポートの資格取得を推進する。   | 学部学科改組が令和9年度以降に延期されたことに伴い、令和5年度に予定していたカリキュラム改正を実施しないこととしたため、学部・学科を超えた横断型プログラムの検討を凍結した。また、ITパスポートは、高等学校「情報Ⅰ」に活用するとして試験の出題範囲が見直されたことから、本学での資格取得推進を見送った。<br>【中間評価に基づく見直しにより、本事業計画は廃止する】   | 0%    | C    | 廃止 (R5)                |
| A12302 | 実践的ジェネラリスト育成プログラムの実施                           | 初年次から学生が研究活動を通じ個々の学生の伸長を支援しつつ、サイエンスリテラシーの育成及び評価を実施する。また、プログラム参加学生の大学院授業の先行履修を促し、「計画No. A11301 学部・大学院一貫教育の実施」につなげる。  | 3年目  | 令和4年度までの取組を引き続き行うほか、新たに、資格学科を除く3学科で、各学科長推薦による麻布出る杭研究プロジェクト担当教員を置いて、全学的な実施体制を構築するとともに、現行の参加条件を満たさない参加希望学生も受け入れられるよう募集方法を工夫した上で、対象を広げ、同プロジェクトを更に活性化させる。本事業は、A12101「出る杭を引き出す教育プログラム」の一部であることから、令和5年度の事業計画見直しの際に、A12101の一部として取り扱うことを提案する。 | 事業推進委員会に各学科長推薦による麻布出る杭研究プロジェクト担当教員を委員として加え、全学的な実施体制を構築した。同研究プロジェクトでは、参加資格を満たさない参加希望者にも門戸を広げるため、2次募集時における参加条件を緩和し、同プログラムの更なる活性化を図った結果、過去最多となる1年次81人、2年次53人の参加があった。また、令和5年度の大学院科目の早期履修認定者は15人(内プロジェクト参加者は12人)、早期修了者は6人(内プロジェクト参加者は5人)となった。 | 80%   | S    | 統合<br>A12101<br>A12302 |
| A12303 | 動物・生命科学データサイエンスセンターを基とした教育の展開                  | 「出る杭を引き出す教育プログラム」に基づき、生命科学領域に関係するデータサイエンス関連科目を開講する等、具体的な整備を進める。   | 3年目  | 文科省から申請要件の変更があったため、その対応に努め、データサイエンスセンターを中心に、「数理・データサイエンス・AIプログラム認定制度」を令和5年度に申請する。   | 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定申請を行い、令和5年8月25日に正式決定されたことを受けて、本事業を完了した。   | 100%  | A    | 完了 (R5)                |
| A12401 | フィールドワーク教育の推進                                  | 学術交流協定を結んでいる島根県美郷町にフィールドワークの拠点となる施設を設置し、教員とともに五感で体感できるフィールドワーク教育をより一層推進する。  | 3年目  | フィールドワークセンターを活用した動植物の生態や食品、環境などの教育・研究拠点とするフィールドワーク教育やPBL教育の推進に積極的に努め、「麻布出る杭プログラム」とも連携した教育を推進する。   | フィールドワークセンターにおいて、「生物多様性フィールドワーク演習」及び「食品開発PBL」等の授業を実施したほか、4年次学生の卒業研究で活用された。今後は、在学生調査や授業評価等を利用して学生の満足度調査を行いたい。   | 70%   | A    | 継続                     |

## II 事業の概要

| 計画No.  | 事業計画名   | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画  | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性        |
|--------|---|--|------|---|--|-------|------|------------|
| A12402 | PBL学習について   | 既に自由科目として展開しているPBL学習を正課授業科目として取り入れる。また、正課外の模擬グループディスカッション(就活実習)を活用して、学生のコミュニケーションスキルと就職力の向上に努める。                             | 3年目  | 令和6年4月設置予定の獣医保健看護学科及び令和8年4月に予定している獣医学科を除く既存学科の改組の方針を受けて、「3ポリシーの改正」及び「カリキュラム改正」の必要性を検討するとともに、PBL学習を正課授業科目として取り入れる方策を検討する。  | 生命・環境科学部食品生命科学科及び環境科学科において、PBL学習に係る科目を自由科目から選択科目とすることで卒業要件に組み込むとともに、新たに選択科目を追加する等、学生の多様なニーズに応え、学びの幅を広げるカリキュラム改正を行った。   | 60%   | B    | 完了<br>(R5) |
| A12403 | SDGsに鑑みた学習の充実                                     | 持続可能な社会の実現に向け、行政や企業などの外部機関と連携し「資源活用・資源循環」「環境教育」「環境保全」などの課題に対して、自ら考え挑戦する課題解決型学習(PBL)を進めていく。                                   | 3年目  | 引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、令和4年度に実施した内容を維持しつつ、実施回数や内容の向上を目指すこととする。   | 食品生命科学科1年次のPBL実習では、フィールドワークセンターを活用し、生物多様性をベースとした食品開発への応用術を学ばせた。また、「さがみはら生物多様性ネットワーク会員交流会」の会場校に指定され、学生が環境保全関連の発表を行う機会が得られた。さらに、「相模原SDGsまなべるマップ」で大学の博物館が掲載された。 | 75%   | A    | 継続         |
| A12501 | 企業調査の継続的な実施と実施結果に基づく評価と改善の実施                      | 本学卒業生のキャリア状況について調査し、今後の教育改善及び就職支援に資する基礎データを取得することを目的として、また、インターンシップ受入先及び求人先の新規開拓を目的に調査を実施する。                                 | 3年目  | 私立大学等経常費補助金(教育の質に係る客観的指標調査)の要件変更に伴い、令和5年2月に開催する学内合同研究会に参加する企業・自治体を対象に同様の調査を実施する予定であることから、この追加調査を含めた結果を用いて、学内報告会(効果測定)を実施する。   | 令和4年度に実施した調査結果を9月教育研究会で報告するとともに、教職員を対象としたFD研修会を開催し、卒業生の輩出先である企業が求める能力及び印象を明らかにした。令和6年度以降も継続して調査を行うが、懸念される回答率の低下を防ぐ工夫が課題となる。                                  | 60%   | A    | 継続         |
| A12502 | 「キャリア支援英語」の導入及び実施による「教育の質の向上」と「英語力・コミュニケーション力の向上」 | グローバル化の加速と高大接続に伴い「英語4技能」を重視し、低学年のキャリア教育として語学研修の機会を提供することで、教育の質の向上、国内外で外国人と協働が可能な人材の育成を行う。達成目標は、TOEIC 550点～750点又は英検準2級～準1級取得。 | 3年目  | 令和4年に一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)が企業に実施したアンケート結果では、求める人材像に変化があり、外国語能力に期待する企業は4.5%であったほか、9月に本学で実施した企業調査においても求める能力の中で同能力が最下位であったという結果が出たことから、事業の必要性の検討及び学部学科改組にあわせたカリキュラムへの取入れを含め、引き続き情報収集を行うこととする。 | 卒業生の輩出先である企業、地方自治体を対象とした企業調査において、大卒者に求める能力を調査した結果、19の能力のうち、「外国語を使う能力」が一番低い結果(一番必要としない能力)であった。<br>【中間評価に基づく見直しにより、本事業計画は廃止する】                                 | 60%   | A    | 廃止<br>(R5) |

| 計画No.  | 事業計画名   | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度取組計画  | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性        |
|--------|---|--|------|--|--|-------|------|------------|
| A12503 | アセスメントテスト実施による学生のジェネリックスキル測定(リテラシー、コンピテンシー測定) | 学生は1年次及び3年次にWEB受検が可能となり、低学年からジェネリックスキル(リテラシー、コンピテンシー)を測定することで、自身の成長度が可視化され、今後、就職活動で重要な「自己分析」が容易となる。                    | 3年目  | 令和3年度に実施した㈱i-plug社のコレカナの事業終了に伴い、令和4年度から㈱ベネッセi-キャリアが提供する"GPS-Academic"を利用して実施しており、今回受検した1年次学生は3年次で再度受検させることで成長度を可視化するが、その間となる2年次においても可能な範囲で継続的なフォローができないか検討を行う。 | 5学科の平均受検率は96.6%と高い水準を維持することができた。フォローアップ講座後のアンケートにおける満足度は令和5年度も上昇し、87.8%という結果となった。障害者の受検に当たっては、職員が個別にサポートした。このような個別対応が必要な学生が増えた際の体制が課題である。なお、教育研究会議において「サイエンスリテラシーテスト」及び「コンピテンシーテスト」を基幹調査として位置付けており、"GPS-Academic"の役割と重複することから、予算節減の観点で同アセスメントテストを実施しないこと、また実施期間において、低学年次からリテラシーやコンピテンシーを測定し、学生個人の成長度合いを可視化したという点において、当初目的を達成していることから本事業計画は完了とする。 | 100%  | A    | 完了<br>(R5) |
| A12504 | 就職率向上につながる支援活動の実施(就職相談室の予約枠拡充)                | 4人の「就職相談員」の配置により、低学年から利用可能にするとともに、3・4年次(獣医5・6年次)は、就職活動やインターンシップに向けた支援(履歴書・ES添削、面接対策)を対面・メール・オンラインで実施するほか、予約枠の更なる拡充を図る。 | 3年目  | 繁忙期の就職相談室の予約枠拡充及び退職する相談員の後任に国家資格保有者を補充する。また、障害者差別解消法により合理的配慮が義務づけられることを念頭に発達障がい等を抱えている学生のキャリア支援に係わる研修会を実施する。なお、実施に当たっては、ハローワーク相模原の専門支援員を講師に招聘する予定である。          | 新たに国家資格保有者の補充を行うとともに、就活対策講座で就職相談員による書類添削会を実施した。また、ハローワーク相模原に加え、神奈川障害者職業センターの障害者職業カウンセラーを講師として招聘し、発達障がい等を抱える学生支援に係わる研修会を開催した。   | 60%   | A    | 継続         |

A2. 研究・社会連携

| 計画No.  | 事業計画名  | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画  | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|--|--|------|---|--|-------|------|-----|
| A21101 | 査読付き論文3本/3年を実現する教員割合増加の推進                        | 蓄積した研究成果を社会に還元することは高等教育機関としての使命であり、継続的な発信には、まずは「3年間で査読付き論文3件」を目標として掲げ、5年後には「査読付き論文3件/3年」の教員割合70%を目指して取り組む。     | 3年目  | 競争的研究費間接経費の有効活用や研究者還元の観点から、新たな取組としてオープンアクセスジャーナル等の論文投稿料を補助し(1人1本40万円上限、予算要望額1,500万円)、査読付き論文の実績向上や研究業績の底上げを図る。                         | 査読付き論文3件/3年の割合は、目標をほぼ達成した。競争的研究費獲得額(直接経費のみ)は、過去最高額となり目標を達成した。科研費採択数(代表)は、目標を達成した。本部補助金の若手研究サポートは、1人に給付した。オープンアクセスジャーナル等の論文投稿料を補助する新たな取組に着手した。  | 60%   | A    | 継続  |
| A21201 | 社会・地域と連携した実践教育                                   | 相模川の川原や生物について、野外体験活動を通して親しむ、感じたことをフィールドノートに表現する。セミナーを通して川を正しく保全できる人材を育成し、里山川海つながりで地域の持続可能性を目指す。                | 3年目  | 親と子の環境教育を推進するため、令和4年度実施を見送った相模川流域での生物多様性について学ぶ機会を提供できるよう目指す。また、令和4年度に引き続き、Webの活用も視野に入れる。  | 令和4年度と同様に開催準備時期が新型コロナウイルス感染症の5類移行前であったため、現地に赴き相模川流域での生物多様性について学ぶ機会を提供できなかったが、令和4年度に引き続き、作成済みのWeb動画を用いて環境教育を行った。  | 60%   | B    | 継続  |
| A21202 | 大学と社会をつなぐイベント(八ヶ岳自然クラブとの協働プロジェクト)大学と社会を繋ぐイベントの開催 | 市民団体である八ヶ岳自然クラブとの協働プロジェクトとして実施しているフクロウ生体調査の一環である。ワークショップでは、八ヶ岳にフクロウに人工巣に残された巣材からネズミの骨を取り出しフクロウの生態を学んでもらう。      | 3年目  | アフターコロナを期待し、サンプル素材の輸送に係わる経費などを検討し、八ヶ岳のフクロウの人工巣に残された巣材からネズミの骨を取り出しフクロウの生態を学ぶ機会を計画する。   | 市民団体である八ヶ岳自然クラブとの協働プロジェクトであるフクロウ生体調査の実施は、フクロウの巣立ちが新型コロナウイルス感染症の5類移行前であったため、サンプルを入手することができなかった。一方、相模原市立博物館巡回展示会場の一角を占め、定期開催を実施するなど、大学と社会をつなぐイベントができた。                                 | 20%   | B    | 継続  |
| A22101 | 「ヒトと動物の共生科学センター」の活動を推進(附属生物科学総合研究所の研究部門)         | 研究と教育の一体化を実現させ、獣医系・生命科学系大学として麻布大学らしさを反映した新たな教育研究体制を整備する。また、大規模な分野横断的な学際型研究プラットフォームによる展開を通して研究成果を修学者や社会へ還元していく。 | 3年目  | 複数学科参加の研究分野を横断した研究グループへの支援金(予算額600万円)給付を継続し、学際型研究として特色ある高度な研究の更なる活性化を目指す。   | センター所属論文は3グループであったが、参画者の論文数は5グループ20本あり、一定の成果があった。6つの研究分野を公募で7グループ選定して支援金を給付した。採択後の義務として、企業等との共同研究の推進、採択後3年間で査読付き論文を3本掲載されるよう努めることとし、センター所属を明記した論文数の増加につなげる。                          | 50%   | A    | 継続  |
| A22102 | 共同研究、受託研究、奨学寄附金等を活用した産官学共同研究の推進                  | 社会的課題解決や新たな価値創造創出に取り組むため、産業界との共同研究等を進め、効果的に社会や学修者等へ還元する。   | 3年目  | ヒトと動物の共生科学センターにおける研究成果をアピールして企業等とのコラボレーションを促進し、産学連携イベント「ファーマラボXPO」への出展による広報活動を継続し、業務委託により産学連携活動をサポートしているテックマネッジ社の協力の下、外部資金獲得額の向上を目指す。 | 外部資金及び技術移転について、目標を達成した。令和5年7月に開催された「ファーマラボEXPO」に教員3人が出展・研究発表し、本学の知財・研究内容を学外に発信するなど産学連携活動を展開した。本学発ベンチャーの設立に関しては、令和5年8月に「大学発ベンチャーの認定に関する規程」を制定・施行するとともに、同年10月に本学として初めて大学発ベンチャー1社を認定した。 | 70%   | S    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名                            | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度取組計画  | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|----------------------------------|---|------|--|---|-------|------|-----|
| A22103 | 協定等に基づく学・学(大学間)連携研究の推進           | 学・学(大学間)連携研究では、連携に伴う相乗効果に加え、相手先大学の多様な学類・学間で気づきを得る補完効果が期待できるため、研究成果の多様性を指すために協定等に基づいた学・学連携研究を推進する。 | 3年目  | 日本獣医生命科学大学、東京農業大学、駒澤大学、東京医療学院大学及び鹿児島大学との協定関係を活用して、大学間連携による共同研究を推進する。 | 学・学共同研究契約数は8件であり、目標を達成した。学・学共同研究の成果として、論文2編が学術誌に掲載され、プレスリリースを通じて学外広報を行った。また、学・学共同研究の実績から、私立大学等改革総合支援事業タイプ2-①及び④に対応することができた。 | 70%   | S    | 継続  |
| A22104 | 協定等に基づき、学内設備等の共同利用を通じて多様な研究活動を推進 | 大学が有する多種多様な研究設備等を学内外の研究者が相互利用することにより、設備の有効利用に加え、共同研究の進展や学際領域の開拓などを促すことを目的として本事業を推進する。             | 3年目  | 日本獣医生命科学大学、東京農業大学、駒澤大学、東京医療学院大学及びとの協定関係を活用して、学内施設・設備の共同利用を推進する。      | 他大学との共同研究契約は8件であり、その内日本獣医生命科学大学との共同研究において、学内施設・設備の共同利用を実施した。その成果として、私立大学等改革総合支援事業タイプ2-①に対応することができた。                         | 60%   | A    | 継続  |

A3. 社会的価値

| 計画No.  | 事業計画名   | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度の取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性                              |
|--------|---|---|------|--|---|-------|------|----------------------------------|
| A31101 | 地域と連携した動物保護体制の支援  | 神奈川県動物愛護センターをはじめとした近隣地域や包括協定先と連携して、動物愛護センター等で保護、収容した猫等の避妊手術や去勢手術、診療に協力する。   | 3年目  | 令和4年度に引き続き、学生教育、卒業教育の場において質の高い獣医療を提供できるよう実施していく。また、保護の状況によるため実施件数の予測は困難であるが、事例が発生次第迅速な対応ができるよう整備していくとともに、連携機関を増やし保護活動に協力できるよう体制の整備を行う。 | 令和5年度も神奈川県から要請はなかったが、新たに東京都利島村から依頼を受け、56件の手術を実施することができ、目標を大きく上回った。なお、神奈川県からの依頼がなくなった理由を把握できていないが、引き続き情報共有を図りながら協力体制の整備を行う。  | 70%   | A    | 継続                               |
| A31102 | 包括協定に基づく活動の強化<br>包括連携協定を締結している教育機関、行政機関、民間機関等との定期的な意見交換で、教育への実質的な連携・協力を実施 | 研究成果や磨かれた技術を社会に発信し、社会の発展に貢献する目的で、市民大学や麻布大学教育セミナー等を開催している。今後もセミナー等には、包括協定締結先からセミナー講師を招き実施していく。   | 3年目  | 市民大学の申込定員に満たなかった講座があり、内容・タイトルの精査検討(担当教員との打合せ)、広報力の強化を課題とする。また、令和4年度協定締結の千葉県・北海道のNOSAIとの締結記念セミナーの実施を計画する。                               | 動物応用科学科担当と協議し、新学科のPRを兼ね、「獣医保健看護学」を取り扱う内容とした。環境科学科担当についても実施し、同学科は目標を達成したが、動物応用科学科の目標は未達だった。千葉県・北海道のNOSAIとの協定締結記念セミナーを計画したが、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、NOSAI側が繁忙となり実施を延期した。 | 75%   | B    | 継続                               |
| A31201 | 博物館を利用した取組<br>公開講座(小中高一般社会人向け)  | ワークショップ『フクロウの巣からネズミの骨を取り出す』<br>八ヶ岳のフクロウの人工巣に残された巣材から、ネズミの骨を取り出す作業であり、この作業を通じて、骨の勉強やフクロウの生態を学ぶ。  | 3年目  | アフターコロナを期待し、サンプル素材の輸送に係る経費等の検討を行い、八ヶ岳のフクロウの人工巣に残された巣材からネズミの骨を取り出してフクロウの生態を学ぶ機会を計画する。   | 新型コロナウイルス感染症が5類に移行する前にフクロウが巣立ちを迎えたため、供給先からフクロウの人工巣からのサンプル素材の提供を受けられず、結果的にコロナ禍同様実施することができなかった。   | 20%   | C    | 統合<br>A31201<br>A31202<br>A31203 |
| A31202 | 博物館を利用した取組<br>公開講座(小学生向け)<br>子ども教室(春・夏)の開催                                | 小学生の夏休み、冬休み及び春休み等の長期休暇に併せ、年2回程度「何故、同じ哺乳類なのに構造が異なるのか、共通の部位はあるか」等について展示標本を用いた骨格から学ぶ機会を設け、動物の魅力を伝える。また、対象者を小学生に限定すると参加者が躊躇するため、保護者との親子(同伴)教室とする。 | 3年目  | アフターコロナを期待し、小学生を対象とした博物館所蔵の骨標本を用いたスケッチ及び粘土細工による動物種の違いを学ぶ子ども教室を実施する。  | 担当講師の契約満期終了及び使用会場の利用目的変更に伴い、事業内容の変更を行いつつも、令和5年度は冬休みに小学生とその保護者を対象としたワークショップを開催した。また、年度末の祝日にも1回開催するなど、子供に学習機会を提供するとともに、その保護者に対しては本学への関心を高める取組を行うことができた。               | 40%   | A    | 統合<br>A31201<br>A31202<br>A31203 |

| 計画No.  | 事業計画名                                  | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性                              |
|--------|--|---|------|---|---|-------|------|----------------------------------|
| A31203 | 博物館を利用した取組<br>公開講座（中高生向け）<br>理解実験教室の開催 | ニワトリの手羽先で骨格標本を作成し、相同器官の学習機会を提供する。   | 2年目  | 新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、令和5年度を開始年度として実施できるよう検討するが、博物館を会場とせず実習室等を会場にした調整を行う。   | 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、開催に向け準備を試みたが、骨格標本を作製する実習室等の会場の調整が不調となり、開催することができなかった。今後は博物館2階セミナー室以外の会場使用に関する調整を早めに行うこととする。                               | 0%    | C    | 統合<br>A31201<br>A31202<br>A31203 |
| A31301 | 認知度向上に向けた情報発信の強化                       | 麻布大学の学びや特徴、多様な取組を知ってもらうため、プレスリリース、SNS等による情報発信を強化する。これにより、一定の認知度及び社会的価値の向上を図る。 | 3年目  | メディアを中心とした広報活動の更なる充実のほか、令和4年度いのちの博物館では、相模原市との連携により市立博物館・JAXAとの企画展示を開催し、市民を大学に呼びこむことに成功した。この連携を強化する意味で、相模原市立博物館との企画展示・人事交流を目的とした覚書の締結を図り、地域密着を目指す。 | 省エネ・節電を目的とし、いのちの博物館の天井照明を消し「ナイトミュージアム風展示」を開催したところ、地域情報紙(タウンニュース、ショッパー)、ラジオ放送(FM横浜)からの取材対象とされ、本学の知名度向上につながった。また、相模原市立博物館との覚書締結が実現し、人・物の交流が増した。 | 60%   | A    | 継続                               |
| A31302 | 教育・研究施設建物の紹介(情報公開)                     | キャンパスマスタープラン第IV期(改訂版)で予定している教育・研究施設について、大学ホームページ及びプレスリリースにより広く情報発信する。         | 3年目  | 動物病院増改築工事について、竣工の際に大学ホームページ公開及びプレスリリースにより、広く情報発信する。周知に際しては、附属動物病院と連携し、獣医療及び臨床教育の場としての高度化、待合室の充実及びリニアックの更新等、積極的なアピールを行う。                           | 動物病院増改築棟の竣工について、令和6年4月に大学ホームページ公開及びプレスリリースを行った。キャンパスマスタープラン第IV期の改訂により、令和6～7年度においては新規に教育・研究施設建物の建築予定が無いため、本事業計画は令和5年度をもって完了とする。                | 100%  | A    | 完了<br>(R5)                       |



A4. 高校教育

| 計画No.  | 事業計画名     | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|-----------|--|------|---|---|-------|------|-----|
| A41101 | ICT教育の推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の充実、教員の意識向上、授業でのICT教材活用の推進</li> <li>・教員向けノートPC及びタブレット端末を配付、有効な実践例の集積。</li> <li>・ICT教材を最大限活用し、アクティブラーニングをはじめとするPBL(課題解決型授業)への転換。</li> </ul>               | 3年目  | 校内サーバー及びクラウドの容量を考慮に入れていく。iPad販売価格が高騰している。最新型に固執することなく、授業に必要な性能価格のバランスを追及していく。 | 令和5年度をもって、全学年の生徒がiPadを所持する体制となり、生徒とのコミュニケーションに従来以上にICTを利用できるようになった。授業でも教材を生徒のiPadへ直接配信し、生徒がそこへ書き込むこともできるようになったため、ここからより一層ICTによる授業の効率化が図れるようになる。一方、令和4年度に引き続き、教員PCのスペックに対して不安がある状況である。 | 60%   | A    | 継続  |
| A41201 | 英語力の醸成と定着 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語4技能醸成、総合力定着、興味、実践力向上</li> <li>・英検合格率向上、面接試験対策強化、人員配置・拡充、オンライン面接指導、経費確保、手当拡充、ICT環境活用</li> <li>・朝テスト、7限セミナー、土曜講座、ネイティブ英会話講座、EnglishCamp実施</li> </ul>       | 3年目  | 英検のみならず、生徒の英語力向上のため、全方位的に取り組む。  | 英検は全校受験ではなく、個々の生徒の学習状況に合わせて受験ができるよう、個人受験体制へ変更した。生徒は自身の進路に応じて高校3年生終了までにできるだけ高いスコアを目指すこととし、高校2年生での2級取得率は意味を成さない状況にあるため、今後は高校3年生終了時点の調査を実施し、このデータを比較対象としていく。                             | 60%   | A    | 継続  |
| A41301 | 習熟度別教育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力に応じた授業展開、集団内の差の是正</li> <li>・3クラス展開の授業内容、進度及び定期試験の問題難易度を設定</li> <li>・英語を同一クラス内を更に分割、高度な習熟度別教育を実践・拡充</li> <li>・現行3クラス制習熟度別教育を精査、必要に応じ新たなクラス編成検討</li> </ul> | 3年目  | コロナ禍の影響で定期試験の欠席者が目立った。再試験を実施したものの、運営がタイトであったため、令和5年度より体制を一層手厚くする。             | 再試験の実施体制について、試験日程に間隔をとり欠席だった生徒が試験日を選択できるよう配慮を行った。S特進クラスを新設して5年目となるが、学力が高い生徒への教育に本校教員が順応してきたこともあり、極端な平均点の高止まりはみられなかった。今後も、大学入試で戦える学力を身に付けることを目指し、各クラスの生徒の学力に応じた授業やテストを提供していく。          | 60%   | A    | 継続  |
| A41401 | 補習授業の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の高い生徒、低い生徒のフォローアップ実践</li> <li>・主要5教科を中心とした補習授業企画、主体的な学力の向上</li> <li>・勉強合宿実施し、勉強習慣付ける動機を与える</li> <li>・学習習慣の定着が乏しい生徒に対し、学力のボトムアップ</li> </ul>             | 3年目  | コロナ禍の鎮静化に伴い、近隣の宿泊施設・研修施設を利用して、文字通り宿泊を伴う形で勉強合宿を実施する。また、指名学習も定期考査のたびに実施する。      | 最も大きな補習行事である勉強合宿は、夏期及び冬期ともに宿泊スタイルに戻して実施した。その他夏季集中講座、7限セミナー及び土曜講座などの補習も講座内容を充実させ、適切に実施した。  | 60%   | A    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名        | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|--------------|--|------|---|--|-------|------|-----|
| A41501 | 教員研修の充実      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒授業評価、保護者へ授業公開及び教員相互授業参観等の研修を通し、生徒の学力を育成するための授業改善</li> <li>・授業改善、教員の意識変革等研修等を通じて、社会から求められるニーズに適切していく能力の涵養</li> </ul>                    | 3年目  | 質の高い授業を安定して供給することが学校の第一使命であり、そのためには質の高い教員を確保し続ける必要がある。新規採用及び講師の継続について、他校や社会の情勢を注視する。教員にはこれからの社会に求められる資質能力を身に付ける研修機会を継続的に提供する。 | 令和5度も保護者への授業公開は複数日を設定して実施し、200人を超える保護者の来校があった。令和6年度からは対応教員の負担を考慮して公開日数を減らす方向で進めていく。教員にはこれからの社会に求められる資質能力を身に付ける研修機会として各教科担当者が外部研修に参加した。中堅・若手教員授業相互参観も適切に実施した。                       | 60%   | B    | 継続  |
| A42101 | 生徒の人格の尊重     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則やルールの尊重をネット講習会等を通じて啓発</li> <li>・他者の人格や考え方を否定することなく社会へ適応できる多様な価値観の育成</li> <li>・SNS等で無自覚に相手の人格を深く傷つけることがあることを認識させる</li> </ul>            | 3年目  | ネットリテラシー教育を更に推進する。講師を招聘した講習会のみならず、教員が先頭に立ってホームルームなどで話をしていく。   | 令和5年度をもって、全学年にタブレットPCが行きわたり、教育面、事務連絡等がオンライン上で行われる頻度が高まるとともに、生徒間の活動でもオンラインの比重が高まった。このような中ではより一層のネットリテラシーの向上が必要であるため、講習会、探求授業などを適切に実施した。   | 60%   | A    | 継続  |
| A42201 | いじめ防止教育の推進   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に取り組む。生徒の些細な異変にも教員が気付くようにする。</li> <li>・いじめ防止講演(年1回)開催、生徒及び教員へいじめアンケート調査(年2回)実施。生徒の些細な異変にも気づくように連携</li> </ul>          | 3年目  | アンケートのみならず、定例の面談などを通じて生徒の動向把握に努めていく。  | アンケートでは、1学年で現在において1件、過去に1件いじめを受けている又は受けたと回答があった。調査したところ、令和5年度現在のものはグループの他の生徒とうまくいかないとのことで引き続き注視していくこととした。過去のは生徒同士で解決に至っている。学校生活の中で起こる些細な異変については、クラス担任のみならず全教職員が協力して適切な対応に努める必要がある。 | 60%   | A    | 継続  |
| A42301 | 教育環境整備       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な学校運営に配慮し教室配置を決定</li> <li>・机・いす等備品の整備によって、生徒への快適な学習環境の確保に努める。</li> </ul>   | 3年目  | 生徒数が落ち着いた後も、特別教室及び自習室の増設が必須である。学校の教育活動は円滑に行うことができているが、ハード面での更なる充実を図る。   | 総務部の適切な運営により、学年のクラス編成数、模擬試験時の日程と時間、選択授業等を考慮し教室配置を行った。大学教室の利用(美術)とアリーナ会議室の利用(女子更衣室)は継続させていただき授業運営が問題なく実施できた。また、ジェンダー平等の観点から男子更衣室の設置について継続的に検討する必要がある。                               | 60%   | A    | 継続  |
| A42401 | 部活動の適切な運営・管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文武両道を掲げ、誠実な人格の形成を目指す活動に努める。</li> <li>・外部指導員の活用、各部活動の「月間予定」により全体を一括管理する。</li> <li>・新年度入学生から導入するタブレットも活用し、部活動のICT化を推進するきっかけとする。</li> </ul> | 3年目  | 生徒の満足度が高まるよう、部活動をより一層活性化させていく。ただし顧問教員の負担が増えないよう、引き続き外部指導者を積極的に参入させる。  | 新型コロナウイルス感染症の制限が撤廃され、生徒は思う存分部活動を行えるようになった。しかしながら、同感染症やインフルエンザの蔓延もあり、衛生管理に配慮し、健康状態に留意しながら部活動を行った。専任教員の部活動顧問業務の負担を軽減するため、令和5年度は2つの部活動に外部指導員を増員した。                                    | 60%   | A    | 継続  |

## II 事業の概要

| 計画No.  | 事業計画名                           | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|---------------------------------|--|------|---|---|-------|------|-----|
| A42501 | 学校安全管理と防災訓練                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認システムを用いて緊急時に混乱を招かない連絡体制及び行動規範を整える。</li> <li>・生徒と教職員が安全な学校生活を送ることのできる体制を整える。</li> <li>・防災訓練の企画立案と実施、後援会と協力し防災用品の備蓄や補充を行う。</li> </ul>                  | 3年目  | 連絡体制の維持には生徒保護者の協力が必須であり、啓発を継続して努める。避難計画の周知に努めるとともに、防災用食料の更新も継続する。               | 台風等による休校の連絡を、高校独自メールを用いて生徒、保護者及び非常勤講師に対し適切に実施できた。防災訓練、防災用食料更新も適切に実施できた。   | 60%   | A    | 継続  |
| A42601 | 後援会、同窓会との連携による開かれた学校づくり         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が本校の教育活動を知ることができる体制を整える。</li> <li>・後援会、同窓会の協力を得ながら、保護者を体育祭・文化祭などの学校行事へ招待する。</li> <li>・本校の中長期的な活動と連携した行事、事業計画が行われるよう依頼する。</li> </ul>                   | 3年目  | 徐々にではあるが、感染症対策が緩やかなものに移行しているため、令和5年度は社会情勢の許す限り、活動を対面で進める。                       | コロナ禍が収束したことで、体育祭・文化祭に保護者に来校してもらうことができた。保護者間の交流として、後援会主催の「ハーバリウム教室」を開催した。同窓会活動の支援では、令和5年度は11月と翌3月に本校会場とした幹事会を開催し、役員との意見交流ができた。引き続き、生徒、保護者、同窓生が交流できる場の提供に努める。 | 60%   | A    | 継続  |
| A42701 | 地域貢献活動<br>相模原市中央区を中心とする近隣地域への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原市が実施している「絆プロジェクト」への協力を要請に応じ、近隣の児童クラブに赴き、いじめ撲滅などの啓発活動に協力する。児童への学修支援や触れ合い活動を実施する。</li> <li>・近隣の方々を文化祭へ招待する。</li> </ul>                                  | 3年目  | 社会情勢の変化により、対面の活動が復活しつつあるため、絆プロジェクトを含め、どのようなボランティア活動が今後可能であるか、地域のニーズとともに情報収集を行う。 | 令和5年度も絆プロジェクトの実施はなかった。令和5年度から文化祭の一般参加を再開し、近隣の方も招待することができた。学校評価委員会において、学校活動に対する貴重な意見を確認することができた。   | 40%   | B    | 継続  |
| A43101 | 進路意識の向上、キャリア教育                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出た自分を想像した進路決定の促進</li> <li>・様々な職業や社会情勢、就職状況などに目を向けさせる。</li> <li>・職業学問適性検査、説明会、卒業生講演会、生徒対象進路説明会を実施</li> <li>・生徒及び保護者との面談実施、信頼される進路指導の実践</li> </ul>      | 3年目  | 対面とオンラインのハイブリッドで、保護者の利便性を高めつつ、理解を深めてもらう。生徒には引き続き対面で進路指導を進めていく。                  | 進路指導部より二者面談、三者面談の方向性を打ち出し、クラス担任が面談しやすい環境づくりを行った。進路説明会は対面に戻すものもあったが、教室にオンライン配信をしてクラス担任がその内容を補強して説明した方が効果的な面もあり、引き続きオンライン実施としたものも多かった。                        | 60%   | A    | 継続  |
| A43201 | 難関大学合格率の向上                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自らの進路希望を叶え、難関大学に合格する力を身に付ける。</li> <li>・全国学力模試、大学説明会、一般入試出願説明会の実施</li> <li>・模試結果の分析会等を通し入試情報の共有し、進路指導実施</li> <li>・受験プラン提示、生徒の合格可能性を上げる取組を実践</li> </ul> | 3年目  | オンラインで情報を発信することは、特に保護者に対して有効であり評判が良い。一方で対面を望む声もあるため、双方のニーズを満たす情報発信を行っていく。       | 令和5年度の卒業生数が令和4年度から496人から304人へと200人程度減少したにも関わらず、令和5年度は「国公立」に11人、「早慶上理」に20人、「GMARCH」に106人という実績を残すことができ、割合として過去最高を更新した。  | 65%   | S    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名                          | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画   | 令和5年度の成果と課題  | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|--------------------------------|--|------|--|--|-------|------|-----|
| A43301 | 麻布大学との高大連携                     | ・3学年理系クラス在籍生徒数の10%の進学<br>・附属高等学校対象プログラムの実施<br>・「麻布出る杭プログラム」の中の高大連携プログラム「いのちと共生の研究プログラム」の案内             | 3年目  | 麻布大学への進学を希望する生徒が、全員その進路を実現できるよう、大学と一層の連携を図る。   | 令和4年度に引き続き、麻布大学の学部、研究活動、入試に関する情報を校内に掲示し、興味がある生徒があれば、相談できる体制を構築した。出願者の割合は増加しているものの不合格の割合が多く目標を達成できなかったため、学力の醸成が課題である。                   | 50%   | B    | 継続  |
| A43401 | 新大学入試への対応                      | ・大学入学共通テスト対策模試、英検全校受験を実施<br>・新大学入試の情報収集に努め共有する   | 3年目  | コロナ禍における、各大学の対応は統一感が薄いため、常に入試情報を把握し迅速に生徒に配信する。校内実施模試及び英検全校受験の機会を有効に活用し、生徒一人一人の学力指標を継続して追跡する。 | 進路説明会で大学入学共通テストについて説明を行い、高校2年2月には河合塾の共通テスト早期対策模試を実施した。高校3年9月には大学入学共通テスト説明会を行い、適切な出願ができるよう取り組んだ。  | 60%   | A    | 継続  |
| A43501 | 保護者への情報提供                      | ・学校と保護者が協力して進路指導に向かう体制づくりを構築<br>・保護者へ向け最新の進路情報を発信・共有   | 3年目  | 重要な情報は動画内の発言以外にも、書面(PDF)にして配布するなど、インターフェイスに工夫を凝らしていく。  | 保護者対象進路説明会は全て対面で実施するとともに、オンラインでも必ず配信した。また、生徒のみ対象の各種説明会も保護者にも配信し、共有した。対面とオンラインのハイブリッドにより、保護者への情報提供量が飛躍的に上がり、本校の進路指導方針への理解を深めてもらうことができた。 | 60%   | A    | 継続  |
| A44101 | 定員充足を基本とした入学者数の確保              | ・受験者数1,000人、在籍生徒数は適正数値を目指す<br>・神奈川県私立学校入学者選抜制度による、生徒募集の厳格管理<br>・適正な内申基準の設定、効果的な入試制度、更なる改善              | 3年目  | 出願者及び入学者を、適正な数で管理していくためのデータ収集、その研究に一層努めることで、安定した生徒数の確保に貢献する。                                 | 適正な受験者数及び在籍生徒数を目指し、9教科の内申基準を大幅に上昇させた。その結果、令和5年度入学生は目標値の11人の超過に抑えることができたため、全生徒数は1000人を下回り、適正な生徒数に大きく近づいた。                               | 60%   | A    | 継続  |
| A44201 | 学校説明会をはじめとする広報活動の効果的かつ適正な運用    | ・来場者の満足度を落とすことなく、アピールすべき内容を的確に伝える<br>・教員の配置の更なる改善、説明内容の精査<br>・マニュアルの徹底、説明資料の統一と共有化<br>・来場者に対する丁寧な対応を徹底 | 3年目  | 対面での説明を希望するニーズも復活しつつあり、こちらへの対応も喫緊の課題となる。オンラインと併用しつつ一層の情報提供に努め、志願者数の確保に努める。                   | 令和4年度からの変更として、学校説明会開催時期を1か月早めたほか、オンライン学校説明会のイブニング開催などを試みた。コロナ禍の収束により、説明会に生徒スタッフを導入し活気ある説明会を開催できた。                                      | 50%   | A    | 継続  |
| A44301 | ホームページをはじめとするインターネットの一層の活用及び充実 | ・入試・広報に関する情報の充実<br>・ホームページのスマートフォン用サイトの充実を図る。<br>・LINE公式アカウント、YouTubeチャンネル等の充実を図る。                     | 3年目  | ホームページ業者を変更し、学校活動や説明会等のイベント情報についてリアルタイムでの更新を実現させ、生徒募集活動の充実を図る。                               | コロナ禍を経てニーズが対面式に戻りつつあることから、対面とオンラインのハイブリッド式の広報を模索することで、時代に合った効果的な広報戦略の分析を実施した。  | 50%   | A    | 継続  |

A5. 学園運営・経営

| 計画No.  | 事業計画名                        | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|------------------------------|--|------|--|---|-------|------|-----|
| A51101 | 入学定員の確実な確保(本学一般入試・大学入学共通テスト) | 各学科の競合大学の状況や受験者ニーズを分析・考慮した上で、試験科目、出題分野、試験日程、地方会場等を検証し、時代に即した入学試験を実施する。また、時期に合わせた広報活動も実施する。               | 3年目  | 獣医保健看護学科の入試を新たに加え、令和6年1月入試を5学科(獣医学科を除く。)で実施する。その他の2月前半に実施の入試は、3日(獣医学科)以外の日程を前年に続き獣医学科を除く5学科統一問題として受験機会を増やすほか、2月7日に全学科の入試日程を追加する。 | 獣医保健看護学科の新設により、獣医学部志願者は目標を大幅に上回った。生命・環境科学部は令和4年度並みに志願者を確保することができたが、全国的に年内入試へのシフトが続いていることもあり、目標は未達であった。ただし、法人目標として設定された入学人数561人に対し、認証評価受審前年度で抑制したこともあり、令和6年度入学者は554人となったが、令和元年度に一部学科で入学定員が未充足となつて以降6年ぶりに全学科において入学定員を充足するなど成果が上がっている。   | 56%   | A    | 継続  |
| A51102 | 入学定員の確実な確保(推薦等入学試験)          | 指定校・協定校含む戦略的な推薦入学試験を実現するため、強化地域(例：鉄道沿線や本学の教育ニーズの高い地域)、高校の課程別戦略、評定基準、試験実施方法を精査し、時代と受験者ニーズに即した推薦入学試験を実現する。 | 3年目  | 獣医保健看護学科の入試を新たに加える。縁結び入試志願者が2年連続いなかったことを受け、令和5年度は同一入試を10月実施ではなく、3月の一般入試第Ⅱ期に併せて実施する。  | 入試広報担当、入試担当及び教員との緊密な連携により、評価指標としては両学部ともに目標を大幅に達成することができた。特に獣医学部においては、獣医保健看護学科を新設した影響に加え、獣医学科及び動物応用科学科にあっても令和4年度対比で大幅に増加した。生命・環境科学部においては、環境科学科が令和4年度対比で増加している。なお、法人目標として設定された入学人数561人に対し、認証評価受審前年度で抑制したこともあり、令和6年度入学者は554人となったが、令和元年度に一部学科で入学定員が未充足となつて以降6年ぶりに全学科において入学定員を充足するなど成果が上がっている。 | 60%   | S    | 継続  |
| A51103 | 学部学科の改組等の教育組織改革              | 少子化が進行する中、大学における入学定員充足と学園経営の安定化を維持するため、時代に即した教育の提供を目的に、改組等について検討し取り組む。                                   | 3年目  | 引き続き、令和6年4月に獣医保健看護学科を設置することとして文部科学省に届出を行う。動物応用科学科、食品生命科学科、環境科学科の再編及び臨床検査技術学科の再編については、改組構想に基づく成案を作成する。                            | 獣医保健看護学科の設置(令和6年4月開設)が正式に認められた。3学科(動物応用科学科、食品生命科学科及び環境科学科)改組構想は廃止となった。今後は、動物応用科学科の改組は行わず、2学科(食品生命科学科及び環境科学科)の改組構想について定員充足の状況を考慮し、継続して検討することとなった。  | 75%   | A    | 継続  |
| A51104 | 博物館の教育への活用                   | 両学部にて、学生の教育活動の場として、「歴史的資料の展示」、「動物標本の展示」、「研究内容の紹介の展示」を3本柱とする博物館として積極的に活用されており、今後も継続して活用されるよう取り組んでいく。      | 3年目  | 教育への活用をより効果的な博物館にするため、いのちの博物館と相模原市立博物館とで協定締結を図り、人事交流を活発にすることに加え、ウィズコロナ政策が後押しとなることから更なる授業への利用を促進する。                               | 食品生命科学科における1年次の必修科目である「解剖組織学実習」を行った。また、本学学生サークル「ミュージック」のメンバーがいのちの博物館で培った解説能力を評価され、相模原市立博物館の企画「学びの収穫祭」で1コーナーを担うことができた。   | 40%   | B    | 継続  |
| A51201 | 附属高校との充実した連携                 | 従来からの取組に加えて、「麻布出る杭プログラム」の中の高大連携プログラム「いのちと共生の研究プログラム」への参加を働きかけるとともに、動物・生命科学に興味を持つ生徒の進学につなげる。              | 3年目  | 社会の流れとして、緩和されたウィズコロナを前提として、コロナ禍以前に実施していた附属高校生の夏休みを利用した研究室体験等の再開を目指す。また、附属高校だからこそ、「いのちと共生の研究プログラム」への参加を募る。                        | 教務課を中心として「いのちと共生の研究プログラム」への参加を呼びかけるも、高校生の農学離れが進んでいることから、まずは動物・生命科学に興味を持つ生徒を増やすため、高校の授業として博物館の利用を行うよう促進した結果、美術の授業に利用してもらうことができた。   | 20%   | B    | 継続  |

| 計画No.  | 事業計画名                              | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性        |
|--------|------------------------------------|---|------|---|---|-------|------|------------|
| A51202 | 新たな協定校の開拓                          | 従来からの連携協定校との取組に加え、入学実績のある高校や本学の教育に関心を持つ高校との協定を推進する。協定内容には指定校推薦枠、聴講科目の提供、夏期体験実習及び夏休み研究室体験の受入れ、教育実習受入などを検討する。また、高校・大学の教育連携を深めて、「麻布出る杭プログラム」につなげる。 | 3年目  | 生命・環境科学部と協定を結んでいる私立高等学校6校に対して、他学部を含め本学の魅力を伝え、志願者増加を図る意味で、大学間での締結に変更していくこととする。「麻布出る杭プログラム」を基とした1校(相模女子)とは、協定締結に向けた基本合意に達しており、さらに同様の高等学校を模索する。          | 令和5年度は「麻布出る杭プログラム」を推進するため、桐蔭学園高等学校と協定を締結するとともに、同じ法人の6年一貫教育の桐蔭学園中等教育学校とも同時締結を行った。年度末には神奈川学園中学・高等学校との協定締結を行い新たに3校追加となったが、教務課との連携不足により、学部間協定校を全学協定への移行はできなかった。 | 75%   | B    | 継続         |
| A51401 | 5年間(令和3年度～令和7年度)で収益源となる事業の整理・調査・提案 | 学園の新たな収益につながる事業の調査・実行方法を検討し、学園内で定着・推進できる取組の調査を行う。令和9年度4月を事業のスタート年度となることを目指し、学園発展の一助となる事業を整理・調査・提案する。  | 3年目  | 学園による収益事業を実現するには、経理的な問題が必ず生じることが明確となった。このことについては、大きな課題であることと認識しつつ、将来の収益事業に関わる情報を引き続き集めていく。  | 令和4年度に提案した自動販売機の設置・導入に向けて課題となった分掌上の収益事業の所管部署を強化し、マンパワーの不足を解消するという問題は短期間で解決できないことから、会計処理の規則を含め学校収益関連の講演会(私学経営研究会)等において情報収集を行った。                              | 40%   | B    | 継続         |
| A52101 | 動物病院の経営改善の取組                       | 収支改善に向けた診療単価等の見直しを行い、年度毎に収支状況の分析を実施し、更なる改善の検討を行う。また、診療インセンティブ制度を導入して、診療科及び教員のモチベーションを高めて、診療件数の増加を図る。  | 3年目  | 休診期間の診療件数の減少は避けられず、診療収入も減少するため、減少幅を最小限に抑えるよう検討する。令和6年度に料金改定を実施する準備を進める。   | 増改築工事等に伴う休診期間が発生したが、診療収入及び診療件数ともに当初の見込値を大幅に超える水準となった。診療再開後も診療件数を順調に伸ばせており、令和6年4月に実施する料金改定の準備も完了しているほか、放射線治療装置も本格稼働することで、令和6年度は更なる増収を目指す。                    | 70%   | S    | 継続         |
| A52102 | 動物病院業務体制の整備                        | 動物病院改革に取り組む委員会でも業務体制の問題点や改善点の検討を行い、教員、動物看護師及び事務職員の意識改革を推進するとともに業務委託による負担軽減を行う。特任教員の適性な労務管理の徹底、専任教員の指導による特任教員の診療の質の向上に取り組む。                      | 3年目  | 薬品・医療消耗品の取扱や滅菌業務など診療サポート部門の効率化を図り、質の高い技術を応用して血液検査室から学術的に発信する。令和6年度の動物病院リニューアルオープンに向けて診療料金の改定も実施する。令和3年度に実施した特任教員1種純増の成果を精査し、今後の臨床業務発展・拡大の方向性について検討する。 | 令和6年度新規採用者として、愛玩動物看護師3人及び特任教員II種3人を確保することができた。また、愛玩動物看護師の給料体系の見直し及び特任教員の変形労働時間制の導入など労働環境の改善が進んでいる。引き続き、適正人数の検討を進め安定した診療体制の構築を目指す。                           | 65%   | A    | 継続         |
| A52103 | 動物病院改修に向けた構想・方針の策定と改修工事            | 令和2年11月に設置した増改築委員会で、参加型臨床実習に適した改修及び診療件数増を考慮した診察室等の増改築を検討し、基本構想を決定する。財務管財課と連携して動物病院改修を進める。   | 3年目  | 令和4年度に引き続き、事業計画に基づき、設計会社の協力の下、設計施工業者によるスケジュールに基づき計画を進める。  | 事業計画のとおり、実施設計のスケジュールに基づき、増改築工事が着工し、当初の事業期限である令和6年3月より早い令和5年12月28日に完了引渡しとなり、令和6年1月から診療再開することができた。増築棟には診察室が11室となり、参加型臨床実習に対応する広さを確保することができた。                  | 100%  | S    | 完了<br>(R5) |

## II 事業の概要

| 計画No.  | 事業計画名   | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度取組計画  | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性        |
|--------|---|---|------|--|---|-------|------|------------|
| A52104 | 動物病院改修工事の早期着工(参加型臨床実習の実施を見据えた改築及び増築)                    | 令和3年度に動物病院の増改築等に係る基本設計を行う。令和4年度に着工し、令和5年度に動物病院の増改築等竣工を目指す。※令和4年度は、小動物舎2を解体し、動物病院の増改築等に伴う、駐車場の整備を行う。                     | 3年目  | 施工業者と打合せを行いながら、具体的実施設計を完了し、令和6年春の竣工に向け、増改築計画を滞りなく進める。  | 附属動物病院の増改築工事については、附属動物病院関係者及び設計会社と協議を進め、基本設計・実施設計・施工業者の決定を行い、増改築計画に基づいて工事を着工し、令和5年12月に増築棟が竣工した。また、動物病院既存棟内外の改修工事については、令和6年3月に完了した。                      | 100%  | A    | 完了<br>(R5) |
| A52201 | 馬の診療の充実化  | 馬の診療充実化は、他大学にない取組であり本学の参加型臨床実習を軸とする「特色ある臨床教育」を充実させる。高度医療機器を活用した専門医療は、附属動物病院の収入増とともに、オリンピックや国体の競技馬診療等で、教育と公共の福祉に大きく貢献する。 | 3年目  | 令和5年度以降、早期に馬診療体制を立て直しを図る必要があり、令和6年度に向け専任教員の公募を検討して行く。ただし、募集が難航した際は、専任教員という条件にこだわらず幅広く公募することも検討する。      | 令和4年度に引き続き令和5年度も、馬診療科の専任教員を充足できなかったことから馬診療については実施困難な状況である。令和6年度以降も馬診療の可能な人材を求めているが、大学の馬の二次診療を行える人材の確保は相当ハードルが高く、見通しは明るくないのが現状である。                       | 0%    | C    | 継続         |
| A52301 | 学園内外に向けた教育セミナー、症例検討会の充実化・紹介病院の拡大(オンライン/オンデマンドでの実施方法の開拓) | 対面式講義で開催していた教育セミナーをオンライン、オンデマンドとすることで時間や地域に縛られることなく、学ぶ場を提供する。その環境を整備し、涉外課と連携して実施する。                                     | 3年目  | 卒業生や近隣の動物病院への告知を強化する。また、視聴者アンケートに基づいて講師や講演内容の調整及びその他企画セミナーなどを検討する。                                     | 獣医師専用の動画配信会社を利用したオンデマンド配信の形式で年7回行った。なお、同窓会の協力によりチラシを年2回発行し、ホームページ等でも動画配信の告知を行った。動画視聴者に対し今後配信を希望する内容についてアンケートも実施した。アンケート結果を精査し令和6年度につなげた。                | 60%   | A    | 継続         |
| A52302 | 市民向け公開講座の開講   | 本学附属動物病院で行っている診療活動の広報の一環として、学園祭又はオープンキャンパスを利用して市民向け講演会を行い、獣医療に対して理解を深めてもらう。   | 3年目  | 様々な媒体を活用し麻布大学附属動物病院の認知度を上げる情報発信方法を引き続き検討する。また、休診期間があるため、その期間の活用方法も検討する。プレスリリースは、涉外課と協力し実施に向け、引き続き検討する。 | 令和5年度は、市民大学講座ではなく神奈川新聞で毎月第4日曜日に掲載される連載記事を毎回テーマを変え臨床教員が輪番で執筆した。神奈川新聞社協力の下アンケートを実施したところ、一般的なアンケートに比べ約6倍の660件の回答があったことから一定の宣伝効果はあったと思われる。                  | 50%   | B    | 継続         |
| A53101 | 事務職員ポートフォリオ(スキル等可視化)                                    | 事務職員のスキル、経験等を統一的に把握し、人材活用や事務組織の活性化につなげる。  | 3年目  | 人材活用や事務組織の活性化に資するための把握すべき項目等は昨今多様化しているため、より広い視野で検討する。  | 令和4年5月に経済産業省から公表された未来人材ビジョンに記載のある「意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等」56項目を参考にしつつ、人材活用において把握すべき項目の整理を進めた。   | 25%   | A    | 継続         |
| A53102 | 事務職員の専門知識・能力向上の取組                                       | 外部機関等を活用し業務に直接関係する専門知識・能力の向上に資する研修等への参加を組織的に実施する。大学基準協会研修員制度の利用、推奨資格、勉強会等についても検討する。                                     | 3年目  | 外部機関の研修等に1人1回参加する。認証評価機関に評価委員候補を最低1人以上推薦する。令和6年度第3期認証評価の受審に向けて令和3年度に大学基準協会研修員となった職員の職務行動評価の推移を点検する。    | 外部機関が主催する事務研修に1人2回参加し、知識・能力の向上に努めた。また、認証評価機関の評価委員候補に4人推薦し、2人が委員として委嘱された。なお、令和3年度に大学基準協会へ派遣した職員が令和5年8月末に依願退職した為、当人の評価の推移確認には至らなかったが、後任者に対して円滑に引継ぐことができた。 | 60%   | A    | 継続         |

| 計画No.  | 事業計画名                              | 事業の取組内容  | 取組年数 | 令和5年度の取組計画  | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性        |
|--------|------------------------------------|--|------|---|---|-------|------|------------|
| A53103 | 大学運営の現状理解の浸透や教職協働による取組の推進          | 学園・大学の運営方針や財務状況等の理解・浸透を図り、教職協働による取組の推進を図る。   | 3年目  | 大学運営の現状理解等に資する、又は教職協働の認識向上等に資するSDとして、理事長及び学長からの年頭挨拶を通じた運営方針等の共有を図るほか、財務管財課長(経理担当)による学園の財務状況等への理解促進を目的として2回開催する。 | 全教職員を対象に、1月に理事長・学長による学園・大学の運営等に係るビデオメッセージを配信し、令和5年10月に財務管財課によるオンラインSDセミナーを通じて学園の財務状況等への理解促進を図った。また、改正私学法を踏まえた本学園の新たな理事・評議員の構成と選び方の動画配信により学園内の共通理解を進めた。  | 60%   | A    | 継続         |
| A53201 | 特定資産の純増計画及び資産運用の見直し                | 財政基盤の安定化に向けた収入増加策として、資産運用規模を拡大するため、平成28年度から令和12年度までの15年間に於いて資産運用の資金源となる施設設備引当特定資産及び減価償却引当特定資産を30億円純増させる。 | 3年目  | 令和5年度予算に基づき、特定資産の繰入額及び有価証券購入額を決定する。また、有価証券の購入に当たっては、理事会において基本方針を決定する。   | 一般支払資金から施設設備引当特定資産に対して10億円を繰り入れ、8月末までに有価証券10億円分を購入した。施設設備・減価償却引当特定資産に係る令和5年度末保有高は76億円、有価証券に係る令和5年度末保有高は68億円、受取利息にかかる令和5年度収入額は7,217万円となった。   | 100%  | S    | 継続         |
| A53202 | 寄付金事業(未来募金)の運用                     | 平成29年から実施している「麻布獣医学園未来募金」の募集を引き続き実施するとともに、活用について適宜検討を行う。   | 3年目  | 令和4年12月に故人からの2,200万円の寄付があったので、給付型奨学金の導入を(学生支援課で)検討する。また、病院増改築にあわせて、卒業生をターゲットとした寄付金の募集を行う。                       | 「麻布獣医学園未来募金」の募集として、中間学年を対象に趣意書を10月に発送した。また、病院増改築にあわせて、卒業生や紹介動物病院等を対象に病院独自の趣意書を同時期に発送した。さらに、学園のホームページを改修し、令和6年4月1日から「遺贈による寄付」のページを新たに公開できるよう準備した。  | 100%  | A    | 継続         |
| A53203 | 既存施設の有効活用                          | 授業や学園行事を優先した上で、地域・社会貢献の観点から、学外者等への貸出を行い、学園既存施設の有効活用を図る。施設貸出を行うに当たっては、新型コロナウイルス感染拡大防止の衛生管理を徹底した上で行う。      | 3年目  | 授業や学園行事を優先した上で、地域・社会貢献の観点から、学外者等への貸出を行い、学園既存施設の有効活用を図る。なお、施設の貸出においては、規程等の改定を行い、施設利用料金や感染症対策等について見直した上で再開する。     | 規程の改正、ホームページ上での告知等を行った上で、施設外部貸出を全面的に再開した。令和5年度の貸出実績は53件、約930万円の施設貸出収入を計上している。   | 60%   | A    | 継続         |
| A53204 | 評議員選挙制度の見直し及びこれからの時代に対応できる理事体制への改革 | 評議員選挙の在り方について、理事の選任方法の見直しを含め、今後の厳しい学校法人経営に対応できる経営体制の構築を行う。   | 3年目  | 私学法改正を踏まえて、学園寄附行為等の必要な改正に着手する。現在の理事・評議員が令和6年5月末で任期満了となることから、次期の理事・評議員の選任に係る手続きを進める。                             | 令和5年5月公布(令和7年4月施行)の改正私学法に適應した理事・評議員に関する寄附行為等の各規則を改正した。長年の課題であった卒業生からの選出は、同窓会からの推薦制度を導入することができた。学内教職員選挙についても、電子投票制度の導入を実現した。評議員については女性登用を推進する制度を設けた。令和5年度に実施する理事・評議員の新たな選出について、これによる生じる課題があれば、選挙管理委員会で取りまとめの上、3年後の理事・評議員の選出の課題とする。 | 100%  | S    | 完了<br>(R5) |

## II 事業の概要

| 計画No.  | 事業計画名                       | 事業の取組内容   | 取組年数 | 令和5年度の取組計画   | 令和5年度の成果と課題   | 事業進捗率 | 自己評価 | 方向性 |
|--------|-----------------------------|---|------|--|---|-------|------|-----|
| A53301 | 出産・育児・介護等の両立支援に向けた取組        | ライフステージを考慮した出産・育児・介護等の両立支援に資する取組を検討する。  | 3年目  | 令和4年12月1日に設置されたDEI推進センターと連携し、出産、育児、介護により研究の中断や離職を考える教職員へのサポートを果たす。女性の育児休業取得率100%を引き続き目指す。また、男性の取得も積極的に促す。                    | 出産、育児及び介護を理由とする離職者は発生していない。<br>また、子が出生した者6人(女性3人、男性3人)のうち、育児休業を取得した者は4人(女性3人、男性1人)であり、女性の取得率は100%であった。  | 60%   | A    | 継続  |
| A53401 | 意思決定方法の簡略化(電子決裁の導入やプロセスの検討) | 決定権限の見直しを図り、出張伺いや外部委員の委嘱等の簡易な文書は、メール、ワークフロー等の活用により簡略化するとともに、決裁者の人数を削減する。併せて情報セキュリティ等を見据えルール化を図る。                | 3年目  | 原議書のワークフロー化を順次進めるとともに、デジタル保存について検討し、ワークフロー化とデジタル保存に対応した文書処理規程の見直しを行う。また、手続書類に関しては、教職員に分かりやすい新たな提供方法を検討する。                    | 手続書類一元管理リストを再整備し、その受け皿となる新事務局ホームページを構築して教職員に公開し手続の効率化を図った。また、局長決裁のワークフローの試行を全部署に拡大したところ、開始時期の遅れから目標は未達となったものの、順調に利用率を伸ばした。また、本学電子契約システムの利用件数は69件となるなど、業務の効率化と経費削減に貢献した。 | 45%   | A    | 継続  |
| A53501 | キャンパスマスタープラン第IV期の構築と実行      | キャンパスマスタープラン第IV期の構築と実行<br>主な事業は次のとおりである。<br>・令和4年度に新牛舎の竣工を目指す。<br>・令和3年度に動物病院の増改築に係る基本設計。<br>・令和5年度に動物病院の増改築竣工。 | 3年目  | キャンパスマスタープラン第IV期で令和5年度に計画している動物病院増改築工事を進める。併せて、キャンパスマスタープラン第IV期計画の改定に伴う各建物の修繕計画がスケジュールどおり進むよう、各方面との調整及び進行管理を行う。              | 動物病院増改築工事にあつては、計画どおり、増築棟は令和5年12月、既存棟は令和6年3月に工事が完了した。令和6年度に大規模修繕工事を計画している建物にあつては、令和5年度中より仕様内容等を精査し、工事計画を進めている。   | 60%   | A    | 継続  |
| A53502 | 大学及び附属高校の教育環境の整備修繕の計画的な実施   | 大学及び附属高校の設備、中長期修繕計画の中で、評価区分等を精査し、優先順位を基に各建物の電気、空調、衛生関連の修繕等を年次ごとに計画的に行い、施設・設備の長寿命化を図る。                           | 3年目  | キャンパスマスタープラン第IV期(改定版)及び大学・附属高校の設備、中長期修繕計画の中で、評価区分等を精査し、令和5年度に予算配分額に応じた優先順位に基づき、各建物の電気、空調、衛生関連の修繕等を年次ごとに計画的に行い、施設・設備の長寿命化を図る。 | 大学及び附属高校の設備、中長期修繕計画の中で、評価区分等を精査し、令和5年度に予算配分額に応じた優先順位に基づき、各建物の電気、空調、衛生関連の修繕等を計画的に実施した。   | 60%   | A    | 継続  |



## 4. 教育研究の概要

### 【大学（学士）〔令和5(2023)年度〕】

#### ディプロマ・ポリシー

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学の教育に基づき、ICT を活用し、人と動物と環境の共生をめざす専門的知識と技術を習得し、主体的に学び続け、他者と協働して共に成長できる、幅広い視野を持ち国際社会に対して積極的に貢献できる能力を身に付け、所定の単位の修得及び所定の課程を修了して卒業を認めた者に対して、学士の学位を授与する。

#### カリキュラム・ポリシー

麻布大学は、学生にディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる専門知識・技術などの実践力及び適切な倫理観を修得させるために、基礎教育あるいは教養教育系科目、専門教育系科目を体系的に編成し、ICT を活用しカリキュラムの充実を図り、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業により主体的・自律的な学習を促す教育を実施する。

#### アドミッション・ポリシー

麻布大学では「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神とし、大学の教育の目的を、獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめ、進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしている。この目的を達成するために、獣医学部と生命・環境科学部を設置し、そこでは教育理念として「地球共生系『人と動物と環境の共生をめざして』」を掲げて教育研究を実施している。両学部ともに、本学の建学の精神をよく理解し、教育の目的、教育理念に賛同し、明確な目的意識を持ち、主体性をもって多様な人々と協働した学びや自己の成長への強い意欲に溢れ、能動的に貢献する姿勢を持ち、また大学教育を受けるに十分な基礎学力を有する学生を求めている。

### 【大学院（修士・博士）〔令和5(2023)年度〕】

#### ディプロマ・ポリシー

(修士)

動物応用科学、畜産学、生命科学、健康科学、環境科学及び社会科学それぞれの専門領域において、広い視野を持って高度な専門知識及び研究技術並びに科学者としての倫理観を備え、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。学位を授与される者は、専門性が求められる職業を担うための能力を身に付け、人と動物と環境の共生をめざして、健康社会、食の安全に貢献することができる。

(博士)

獣医学、動物応用科学、畜産学、生命科学、健康科学、環境科学及び社会科学それぞれの専門領域において、深い学識及び卓越した高度な専門知識及び研究技術並びに社会的実践能力を備え、かつ、学術の理論及び科学者としての倫理観を備え、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。学位を授与される者は、研究者として自立した研究活動ができる、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究・分析・提案能力を身に付け、人と動物と環境の共生をめざして、健全な社会の発展と国際貢献に寄与することができる。

#### カリキュラム・ポリシー

麻布大学では、大学院学生に、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる高度な専門性を持つ職業人として、獣医学、畜産学、生命科学、健康科学及び環境科学に関する専門的知識及び研究技術などを基盤とした研究能力、課題解決能力、そして科学者としての倫理観を身に付けさせるために、各専攻分野の教育に必要な講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を編成し、研究指導をする。また幅広くかつ深い学識あるいは学際的な分野の学習の機会を提供するために他研究科・他専攻の授業科目を履修する機会を設け、あるいは全学大学院生を対象にした大学院特別講義を開講している。

#### アドミッション・ポリシー

麻布大学では「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神とし、これに則り、大学院の教育の目的を、本学の教育理念に基づいた学部での教育研究を基盤として、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高い技術力及び研究遂行能力を養い、また高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することとしている。この目的を達成するために、獣医学研究科と環境保健学研究科を設置し、教育研究を実施している。両研究科ともに、建学の精神をよく理解し、大学院の教育の目的に賛同し、本学大学院の目指す教育を受けるに相応しい能力・適性を有し、かつ研究意欲が旺盛な者で、大学院教育を受けるに十分な学士課程修了レベルの幅広い知識と教養を有する学生を求めている。

(1) 教育実施体制

令和5(2023)年5月1日現在

①教員及び学生数

(人)

| 学部・学科等     |                     |                 | 教員          |                             |       |                             |             |               |    | 学生     |      |       |       |       |
|------------|---------------------|-----------------|-------------|-----------------------------|-------|-----------------------------|-------------|---------------|----|--------|------|-------|-------|-------|
|            |                     |                 | 大学設置基準上の教員数 |                             | 常勤教員数 |                             | 常勤教員の学位取得状況 |               |    | 非常勤教員数 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員  | 学生数   |
|            |                     |                 | 総数          | 内 教授(学部)<br>内 研究指導教員教授(大学院) | 総数    | 内 教授(学部)<br>内 研究指導教員教授(大学院) | 博士          | 修士<br>(6年制含む) | 学士 |        |      |       |       |       |
| 学部         | 獣医学部                | 獣医学科            | 19          | 10                          | 55    | 21                          | 53          | 2             | 0  | 43     | 120  | —     | 720   | 904   |
|            |                     | 動物応用科学科         | 10          | 5                           | 21    | 8                           | 20          | 1             | 0  |        | 130  | —     | 520   | 576   |
|            |                     | 基礎教育系           | —           | —                           | 6     | 2                           | 4           | 2             | 0  |        | —    | —     | —     | —     |
|            |                     | 小計              | —           | —                           | 82    | 31                          | 77          | 5             | 0  |        | 43   | 250   | —     | 1,240 |
|            | 生命・環境科学部            | 臨床検査技術学科        | 8           | 4                           | 15    | 6                           | 14          | 1             | 0  | 43     | 80   | —     | 320   | 402   |
|            |                     | 食品生命科学科         | 8           | 4                           | 12    | 5                           | 11          | 1             | 0  |        | 80   | —     | 320   | 222   |
|            |                     | 環境科学科           | 8           | 4                           | 11    | 5                           | 10          | 1             | 0  |        | 80   | —     | 320   | 276   |
|            |                     | 国際コミュニケーション     | —           | —                           | 2     | 0                           | 1           | 1             | 0  |        | —    | —     | —     | —     |
|            |                     | フィールドワーク        | —           | —                           | 1     | 1                           | 1           | 0             | 0  |        | —    | —     | —     | —     |
|            |                     | 数理・データサイエンス     | —           | —                           | 1     | 0                           | 1           | 0             | 0  |        | —    | —     | —     | —     |
|            |                     | 教職課程            | 2           | 1                           | 2     | 2                           | 2           | 0             | 0  |        | —    | —     | —     | —     |
|            |                     | 寄附講座            | —           | —                           | 1     | 0                           | 1           | 0             | 0  |        | 0    | —     | —     | —     |
|            | 小計                  | —               | —           | 45                          | 19    | 41                          | 4           | 0             | 43 | 240    | —    | 960   | 900   |       |
|            | 大学設置基準上、大学全体で必要な教員数 |                 |             | 23                          | 14    | —                           | —           | —             | —  | —      | —    | —     | —     | —     |
| 学部 計       |                     |                 | 78          | 42                          | 127   | 50                          | 118         | 9             | 0  | 86     | 490  | —     | 2,200 | 2,380 |
| 研究科        | 獣医科学研究科             | 獣医学専攻博士課程       | 8           | 4                           | (38)  | (17)                        | —           | —             | —  | 0      | 10   | —     | 40    | 29    |
|            |                     | 動物応用科学専攻 博士前期課程 | 8           | 4                           | (24)  | (12)                        | —           | —             | —  |        | 20   | —     | 40    | 57    |
|            |                     | 動物応用科学専攻 博士後期課程 | 8           | 3                           | (24)  | (12)                        | —           | —             | —  |        | 4    | —     | 12    | 5     |
|            |                     | 小計              | 24          | 11                          | —     | —                           | —           | —             | —  |        | 0    | 34    | —     | 92    |
|            | 学環境保健研究科            | 環境保健科学専攻 博士前期課程 | 12          | 4                           | (36)  | (14)                        | —           | —             | —  | 0      | 7    | —     | 14    | 19    |
|            |                     | 環境保健科学専攻 博士後期課程 | 12          | 4                           | (36)  | (12)                        | —           | —             | —  |        | 2    | —     | 6     | 3     |
| 研究科 計      |                     |                 | 48          | 19                          | —     | —                           | —           | —             | 0  | 43     | —    | 112   | 113   |       |
| 附属動物病院     |                     |                 | —           | —                           | 15    | 0                           | 1           | 14            | 0  | 0      | —    | —     | —     | —     |
| 寄附講座       |                     |                 | —           | —                           | 1     | 0                           | 1           | 0             | 0  | 0      | —    | —     | —     | —     |
| 大学教育推進機構   |                     |                 | —           | —                           | 4     | 0                           | 3           | 1             | 0  | 0      | —    | —     | —     | —     |
| 附置生物学総合研究所 |                     |                 | —           | —                           | 1     | 1                           | 1           | 0             | 0  | 0      | —    | —     | —     | —     |
| 総合計        |                     |                 | —           | —                           | 148   | 51                          | 124         | 24            | 0  | 86     | 533  | —     | 2,312 | 2,493 |

②職員数

(人)

|      | 常勤職員 | 非常勤職員 | 合計  |
|------|------|-------|-----|
| 麻布大学 | 83   | 84    | 167 |

1. ( )は兼務者を表す。
2. 非常勤教員は、獣医学部、生命・環境科学部、大学院、附属高等学校を兼務していても代表身分に片寄せた実人数である。
3. 非常勤教員には、後期のみ授業を担当する者及び業務委託による講師を含む。
4. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

(2) 入学試験実施状況

①令和6(2024)年度入学試験結果

■ 獣医学部

| 学科       | 試験区分          | 募集人員  | (人)   |       |       |       |       |       |     |     |           | (点)        |            |            |           |           |           |
|----------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
|          |               |       | 志願者   |       |       | 受験者   |       |       | 合格者 |     |           | 合格者<br>最高点 | 合格者<br>最低点 | 合格者<br>平均点 |           |           |           |
|          |               |       | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     | 計     | 男   | 女   | 計         |            |            |            |           |           |           |
| 獣医学科     | 推薦            | 28    | 43    | 124   | 167   | 43    | 124   | 167   | 13  | 45  | 58        | 非公表        | 非公表        | 非公表        |           |           |           |
|          | 外国人           | 若干名   | 0     | 2     | 2     | 0     | 2     | 2     | 0   | 1   | 1         |            |            |            |           |           |           |
|          | 帰国生           | 若干名   | 0     | 2     | 2     | 0     | 2     | 2     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 社会人           | 若干名   | 1     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 1   | 0   | 1         |            |            |            |           |           |           |
|          | 地域枠           | 若干名   | 0     | 2     | 2     | 0     | 2     | 2     | 0   | 2   | 2         |            |            |            |           |           |           |
|          | 獣医学科<br>その他※1 | 若干名   | 15    | 18    | 33    | 15    | 18    | 33    | 4   | 8   | 12        |            |            |            |           |           |           |
|          | 学士            | 若干名   | 17    | 15    | 32    | 17    | 15    | 32    | 6   | 5   | 11        |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅰ期B         | 70    | 440   | 728   | 1,168 | 419   | 701   | 1,120 | 52  | 71  | 123       |            |            |            | 290/300   | 215/300   | 232/300   |
|          | 一般Ⅰ期F         |       | 204   | 351   | 555   | 190   | 330   | 520   | 7   | 14  | 21        |            |            |            | 288/300   | 267/300   | 273/300   |
|          | 一般Ⅰ(B・F)小計    |       | 644   | 1,079 | 1,723 | 609   | 1,031 | 1,640 | 59  | 85  | 144       |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅱ期          | 10    | 135   | 230   | 365   | 89    | 159   | 248   | 0   | 2   | 2         |            |            |            | 非公表       | 非公表       | 非公表       |
|          | 共通テストⅠ期       | 7     | 262   | 481   | 743   | 259   | 475   | 734   | 52  | 64  | 116       |            |            |            | 569.8/600 | 466.0/600 | 495.8/600 |
| 共通テストⅡ期  | 5             | 17    | 30    | 47    | 17    | 30    | 47    | 3     | 4   | 7   | 518.8/600 | 494.6/600  | 503.4/600  |            |           |           |           |
| 合計       | 120           | 1,134 | 1,983 | 3,117 | 1,050 | 1,858 | 2,908 | 138   | 216 | 354 |           |            |            |            |           |           |           |
| 獣医保健看護学科 | 総合型Ⅰ期         | 15    | 7     | 90    | 97    | 7     | 83    | 90    | 0   | 25  | 25        | 非公表        | 非公表        | 非公表        |           |           |           |
|          | 推薦※2          | 15    | 7     | 61    | 68    | 7     | 60    | 67    | 3   | 39  | 42        |            |            |            |           |           |           |
|          | 外国人           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 帰国生           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 社会人           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅰ期A         | 25    | 28    | 135   | 163   | 28    | 134   | 162   | 3   | 7   | 10        |            |            |            | 189/200   | 170/200   | 178/200   |
|          | 一般Ⅰ期C         |       | 17    | 67    | 84    | 17    | 65    | 82    | 0   | 7   | 7         |            |            |            | 189/200   | 170/200   | 179/200   |
|          | 一般Ⅰ期D         |       | 10    | 29    | 39    | 10    | 27    | 37    | 0   | 0   | 0         |            |            |            | -         | -         | -         |
|          | 一般Ⅰ期E         |       | 4     | 17    | 21    | 4     | 14    | 18    | 1   | 4   | 5         |            |            |            | 非公表       | 非公表       | 非公表       |
|          | 一般Ⅰ期F         |       | 11    | 57    | 68    | 10    | 55    | 65    | 0   | 2   | 2         |            |            |            | 非公表       | 非公表       | 非公表       |
|          | 一般Ⅰ(A,C~F)小計  |       | 70    | 305   | 375   | 69    | 295   | 364   | 4   | 20  | 24        |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅱ期          | 5     | 10    | 42    | 52    | 4     | 37    | 41    | 0   | 5   | 5         |            |            |            | 非公表       | 非公表       | 非公表       |
| 共通テストⅠ期  | 5             | 33    | 149   | 182   | 31    | 149   | 180   | 0     | 15  | 15  | 432.0/500 | 350.4/500  | 373.7/500  |            |           |           |           |
| 共通テストⅡ期  | 5             | 4     | 35    | 39    | 4     | 35    | 39    | 2     | 3   | 5   | 非公表       | 非公表        | 非公表        |            |           |           |           |
| 合計       | 70            | 131   | 682   | 813   | 122   | 659   | 781   | 9     | 107 | 116 |           |            |            |            |           |           |           |
| 動物応用科学科  | 総合型Ⅰ期         | 25    | 24    | 36    | 60    | 24    | 36    | 60    | 23  | 36  | 59        | 非公表        | 非公表        | 非公表        |           |           |           |
|          | 推薦※2          | 25    | 18    | 32    | 50    | 18    | 32    | 50    | 18  | 32  | 50        |            |            |            |           |           |           |
|          | 外国人           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 帰国生           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 社会人           | 若干名   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0   | 0   | 0         |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅰ期A         | 40    | 67    | 78    | 145   | 64    | 75    | 139   | 21  | 27  | 48        |            |            |            | 197/200   | 141/200   | 159/200   |
|          | 一般Ⅰ期C         |       | 19    | 25    | 44    | 18    | 24    | 42    | 4   | 4   | 8         |            |            |            | 152/200   | 130/200   | 141/200   |
|          | 一般Ⅰ期D         |       | 9     | 22    | 31    | 9     | 19    | 28    | 0   | 6   | 6         |            |            |            | 191/200   | 142/200   | 161/200   |
|          | 一般Ⅰ期E         |       | 5     | 5     | 10    | 4     | 5     | 9     | 0   | 2   | 2         |            |            |            | 非公表       | 非公表       | 非公表       |
|          | 一般Ⅰ期F         |       | 19    | 27    | 46    | 18    | 25    | 43    | 6   | 8   | 14        |            |            |            | 188/200   | 143/200   | 157/200   |
|          | 一般Ⅰ(A,C~F)小計  |       | 119   | 157   | 276   | 113   | 148   | 261   | 31  | 47  | 78        |            |            |            |           |           |           |
|          | 一般Ⅱ期          | 5     | 18    | 22    | 40    | 15    | 14    | 29    | 2   | 4   | 6         |            |            |            | 182/200   | 164/200   | 170/200   |
| 共通テストⅠ期  | 20            | 81    | 149   | 230   | 79    | 148   | 227   | 9     | 34  | 43  | 419.8/500 | 310.2/500  | 340.5/500  |            |           |           |           |
| 共通テストⅡ期  | 5             | 12    | 34    | 46    | 12    | 34    | 46    | 0     | 6   | 6   | 306.4/500 | 280.0/500  | 290.0/500  |            |           |           |           |
| 合計       | 120           | 272   | 430   | 702   | 261   | 412   | 673   | 83    | 159 | 242 |           |            |            |            |           |           |           |

※1【獣医学科】 「獣医学科その他」：内訳（附属特別、卒業生後継者特別）  
 ※2【獣医保健看護学科・動物応用科学科】 「推薦」：内訳（推薦〔公募〕、卒業生子女等、附属特別、指定校推薦特別）  
 ※3 「一般」「共通テスト」の合格者が5人以下の試験区分については、「合格者最高点」「合格者最低点」「合格者平均点」を非公表とする。

編入学試験結果（編入年次：2年次） ※獣医学科及び獣医保健看護学科の編入学試験はなし

〔2024（令和6）年度 動物応用科学科の編入学試験は、志願者なし。〕

■ 生命・環境科学部

| 学科       | 試験区分         | 募集人員 | 志願者 |     |     | 受験者 |     |     | 合格者 |     |         | 合格者平均点  |
|----------|--------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|---------|
|          |              |      | 男   | 女   | 計   | 男   | 女   | 計   | 男   | 女   | 計       |         |
| 臨床検査技術学科 | 総合型Ⅰ期        | 10   | 3   | 19  | 22  | 3   | 19  | 22  | 2   | 17  | 19      | 非公表     |
|          | 推薦※1         | 20   | 8   | 20  | 28  | 8   | 20  | 28  | 8   | 19  | 27      |         |
|          | 帰国生          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 社会人          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 一般Ⅰ期A        | 35   | 17  | 28  | 45  | 15  | 27  | 42  | 8   | 10  | 18      | 143/200 |
|          | 一般Ⅰ期C        |      | 13  | 26  | 39  | 13  | 24  | 37  | 1   | 13  | 14      | 136/200 |
|          | 一般Ⅰ期D        |      | 10  | 23  | 33  | 10  | 21  | 31  | 3   | 7   | 10      | 137/200 |
|          | 一般Ⅰ期E        |      | 1   | 4   | 5   | 1   | 4   | 5   | 0   | 1   | 1       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ期F        |      | 10  | 29  | 39  | 8   | 25  | 33  | 2   | 11  | 13      | 140/200 |
|          | 一般Ⅰ(A,C~F)小計 |      | 51  | 110 | 161 | 47  | 101 | 148 | 14  | 42  | 56      |         |
|          | 一般Ⅱ期         | 5    | 4   | 6   | 10  | 4   | 3   | 7   | 1   | 1   | 2       | 非公表     |
|          | 共通テストⅠ期      | 5    | 32  | 108 | 140 | 31  | 108 | 139 | 23  | 79  | 102     | 217/400 |
| 共通テストⅡ期  | 5            | 4    | 10  | 14  | 4   | 10  | 14  | 3   | 7   | 10  | 227/400 |         |
| 合計       | 80           | 102  | 273 | 375 | 97  | 261 | 358 | 51  | 165 | 216 |         |         |
| 食品生命科学学科 | 総合型Ⅰ期        | 10   | 4   | 6   | 10  | 4   | 6   | 10  | 4   | 6   | 10      | 非公表     |
|          | 総合型Ⅱ期        | 若干名  | 1   | 0   | 1   | 1   | 0   | 1   | 1   | 0   | 1       |         |
|          | 推薦※1         | 10   | 17  | 9   | 26  | 17  | 9   | 26  | 17  | 9   | 26      |         |
|          | 帰国生          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 社会人          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 一般Ⅰ期A        | 15   | 40  | 37  | 77  | 38  | 32  | 70  | 19  | 16  | 35      | 140/200 |
|          | 一般Ⅰ期C        |      | 12  | 9   | 21  | 11  | 8   | 19  | 2   | 3   | 5       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ期D        |      | 6   | 4   | 10  | 4   | 4   | 8   | 1   | 2   | 3       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ期E        |      | 1   | 1   | 2   | 1   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0       | -       |
|          | 一般Ⅰ期F        |      | 5   | 10  | 15  | 4   | 10  | 14  | 1   | 2   | 3       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ(A,C~F)小計 |      | 64  | 61  | 125 | 58  | 54  | 112 | 23  | 23  | 46      |         |
|          | 一般Ⅱ期         | 若干名  | 7   | 2   | 9   | 3   | 0   | 3   | 2   | 0   | 2       | 非公表     |
| 共通テストⅠ期  | 5            | 45   | 69  | 114 | 43  | 69  | 112 | 41  | 68  | 109 | 192/400 |         |
| 共通テストⅡ期  | 若干名          | 3    | 6   | 9   | 3   | 6   | 9   | 3   | 6   | 9   | 190/400 |         |
| 合計       | 40           | 141  | 153 | 294 | 129 | 144 | 273 | 91  | 112 | 203 |         |         |
| 環境科学学科   | 総合型Ⅰ期        | 20   | 4   | 2   | 6   | 2   | 2   | 4   | 2   | 2   | 4       | 非公表     |
|          | 総合型Ⅱ期        | 若干名  | 4   | 0   | 4   | 3   | 0   | 3   | 3   | 0   | 3       |         |
|          | 推薦※1         | 10   | 35  | 8   | 43  | 35  | 8   | 43  | 35  | 8   | 43      |         |
|          | 帰国生          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 社会人          | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       |         |
|          | 一般Ⅰ期A        | 25   | 50  | 27  | 77  | 50  | 26  | 76  | 35  | 22  | 57      | 124/200 |
|          | 一般Ⅰ期C        |      | 7   | 1   | 8   | 7   | 1   | 8   | 3   | 1   | 4       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ期D        |      | 10  | 2   | 12  | 10  | 2   | 12  | 6   | 1   | 7       | 126/200 |
|          | 一般Ⅰ期E        |      | 2   | 5   | 7   | 2   | 4   | 6   | 1   | 3   | 4       | 非公表     |
|          | 一般Ⅰ期F        |      | 10  | 9   | 19  | 10  | 7   | 17  | 5   | 4   | 9       | 129/200 |
|          | 一般Ⅰ(A,C~F)小計 |      | 79  | 44  | 123 | 79  | 40  | 119 | 50  | 31  | 81      |         |
|          | 一般Ⅱ期         | 若干名  | 6   | 2   | 8   | 3   | 0   | 3   | 3   | 0   | 3       | 非公表     |
| 共通テストⅠ期  | 5            | 64   | 48  | 112 | 64  | 48  | 112 | 59  | 47  | 106 | 196/400 |         |
| 共通テストⅡ期  | 若干名          | 5    | 4   | 9   | 5   | 4   | 9   | 4   | 4   | 8   | 188/400 |         |
| 合計       | 60           | 197  | 108 | 305 | 191 | 102 | 293 | 156 | 92  | 248 |         |         |

※1「推薦」：内訳（推薦〔公募〕、卒業生子女等、附属特別、指定校推薦特別、縁結び）

※2「一般」「共通テスト」の合格者が5人以下の試験区分については、「合格者平均点」を非公表とする。

編入学試験結果（編入年次：2年次）

| 学科   | 試験区分 | 募集人員 | 志願者 |   |   | 受験者 |   |   | 合格者 |   |   | 合格者平均点 |
|------|------|------|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|--------|
|      |      |      | 男   | 女 | 計 | 男   | 女 | 計 | 男   | 女 | 計 |        |
| 臨床検査 | 編入   | 若干名  | 1   | 1 | 2 | 1   | 1 | 2 | 1   | 1 | 2 | 非公表    |
| 食品   | 編入   | 若干名  | 0   | 0 | 0 | 0   | 0 | 0 | 0   | 0 | 0 |        |
| 環境   | 編入   | 若干名  | 0   | 0 | 0 | 0   | 0 | 0 | 0   | 0 | 0 |        |

■ 麻布大学大学院 2024 年度第 1 期、第 2 期入学試験（令和 6(2024)年 4 月入学）

(人)

| 研究科              | 専攻     | 課程   | 修業年限 | 試験区分 | 募集人員 | 志願者 |    |    | 受験者 |    |    | 合格者 |    |    |
|------------------|--------|------|------|------|------|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|
|                  |        |      |      |      |      | 男   | 女  | 合計 | 男   | 女  | 合計 | 男   | 女  | 合計 |
| 獣医学              | 獣医学    | 博士   | 4年   | 第1期  | 10   | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  |
|                  |        |      |      | 第2期  | 若干名  | 0   | 1  | 1  | 0   | 1  | 1  | 0   | 1  | 1  |
|                  |        |      |      | 合計   | 10   | 1   | 2  | 3  | 1   | 2  | 3  | 1   | 2  | 3  |
|                  | 動物応用科学 | 博士前期 | 2年   | 第1期  | 20   | 4   | 22 | 26 | 4   | 22 | 26 | 4   | 22 | 26 |
|                  |        |      |      | 第2期  | 若干名  | 4   | 6  | 10 | 4   | 6  | 10 | 4   | 5  | 9  |
|                  |        |      |      | 合計   | 20   | 8   | 28 | 36 | 8   | 28 | 36 | 8   | 27 | 35 |
|                  | 動物応用科学 | 博士後期 | 3年   | 第1期  | 4    | 1   | 0  | 1  | 1   | 0  | 1  | 1   | 0  | 1  |
|                  |        |      |      | 第2期  | 若干名  | 0   | 1  | 1  | 0   | 1  | 1  | 0   | 1  | 1  |
|                  |        |      |      | 合計   | 4    | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  |
| 第1期・第2期<br>研究科合計 |        |      |      |      | 34   | 10  | 31 | 41 | 10  | 31 | 41 | 10  | 30 | 40 |

(人)

| 研究科              | 専攻     | 課程   | 修業年限 | 試験区分 | 募集人員 | 志願者 |   |    | 受験者 |   |    | 合格者 |   |    |
|------------------|--------|------|------|------|------|-----|---|----|-----|---|----|-----|---|----|
|                  |        |      |      |      |      | 男   | 女 | 合計 | 男   | 女 | 合計 | 男   | 女 | 合計 |
| 環境保健学            | 環境保健科学 | 博士前期 | 2年   | 第1期  | 7    | 1   | 2 | 3  | 1   | 2 | 3  | 1   | 2 | 3  |
|                  |        |      |      | 第2期  | 若干名  | 3   | 1 | 4  | 3   | 1 | 4  | 3   | 1 | 4  |
|                  |        |      |      | 合計   | 7    | 4   | 3 | 7  | 4   | 3 | 7  | 4   | 3 | 7  |
|                  | 環境保健科学 | 博士後期 | 3年   | 第1期  | 2    | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  |
|                  |        |      |      | 第2期  | 若干名  | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  |
|                  |        |      |      | 合計   | 2    | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  | 0   | 0 | 0  |
| 第1期・第2期<br>研究科合計 |        |      |      |      | 9    | 4   | 3 | 7  | 4   | 3 | 7  | 4   | 3 | 7  |

麻布大学大学院 2023 年度 10 月期入学試験（令和 5(2023)年 10 月入学）は、志願者なし。

■ 麻布大学及び麻布大学大学院 入学者数

※入学者数については、法人の概要「5. 学生・生徒の状況」(P. 7)を参照。

































































